

宮古市埋蔵文化財調査報告書 4
Archaeological Researches in Miyako

宮古市遺跡分布調査報告書 2

Distribution of Archaeological Research Sites
in Miyako, Iwate Prefecture

1984



小山田地区出土 土偶(中嶋 隆氏所蔵)

Photo. 1

岩手県宮古市教育委員会

The Board of Education Miyako, Iwate Pre.

序 文

宮古市内には縄文時代から中近世までの数多くの遺跡があり、地域の歴史を探る上で重要な手がかりとなっております。このような遺跡を保存するとともに、文化財としての正しい内容をとらえ後世に伝えていくことが私共の責務と考えております。

遺跡保存のための基礎的な調査として、昨年度から分布調査事業を実施しているところですが、昭和57年度は82遺跡、本年度は62の遺跡を確認しております。本報告書はこれらの遺跡の所在地や出土遺物を公開して、周知を進めるために編集したものです。刊行を機会に地域の方々の遺跡保存に対する正しい理解とご協力をお願いし序文といたします。

昭和59年3月

宮古市教育委員会

教育長 野口 健 造

例 言

1. 本書は昭和58年度の文化財保護事業として国庫及び県費の補助を受けて宮古市教育委員会が実施した、遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 調査は宮古市教育委員会が主体となり、宮古市教育委員会事務局社会教育課主事武田将男が担当した。
3. 報告にあたり宮古市文化財保護審議会委員中嶋隆氏所蔵の遺物を借用した。記して謝意を表す。
4. 本書の編集は宮古市教育委員会が行い、執筆・図版作成・写真撮影は武田が行った。また、図版作成にあたり高橋憲太郎・鈴木美奈子両氏の協力があった。
5. 遺物写真の一部については、宮古市史編纂室から借用をうけた。
6. 挿図について
 - ・遺物実測図・土器拓影についてはスケールを付して縮尺を示した。
 - ・遺跡分布図については、遺跡ごとに略号と遺跡番号を付した。縮尺は各々図中に示した。
7. 遺物表示について
 - ・胎土に繊維を含む土器及び還元焰焼成の陶質土器を各々次のように表わした。



繊維を含む土器



還元焰焼成の陶質土器

9. 調査体制について

宮古市教育委員会事務局	社会教育課長	藤田 利美
〃	社会教育係長	若狭健一郎
〃	社会教育主事	沼崎 幸夫

目 次

序 文 宮古市教育委員会
教育長 野口 健 造

例 言

目 次

I 遺跡の保護のために

1. 遺跡のもつ意味 -----	1	page
2. 遺跡保護の必要性 -----	1	
3. 遺跡の分布図について -----	2	
4. 遺跡についての問い合わせ -----	2	

II 分布調査の概要

調査対象地域 -----	2	
--------------	---	--

III 分布調査の結果

1. 佐原・日の出町地区 (Sabara-Hinode tyô) -----	4	
2. 近内地区 (Chikanai) -----	14	
3. 小山田地区 (koyamada) -----	36	
4. 八木沢地区 (Yagisawa) -----	52	
5. 高浜地区 (Takahama) -----	72	
6. 金浜地区 (Kanehama) -----	87	

写真目次

Photo.	1	小山田地区出土 土偶	-----	内表紙
	2	佐原・日の出町地区航空写真	-----	5 page
	3	佐原・日の出町地区遺物	-----	9
	4	"	-----	9
	5	"	-----	10
	6	佐原地区空中写真	-----	11
	7	" Sab-01~03	-----	11
	8	佐原地区 Sab-03	-----	12
	9	" Sab-02	-----	12
	10	日の出町地区空中写真	-----	13
	11	" Hi-02	-----	13
	12	近内地区航空写真	-----	14
	13	近内館航空写真	-----	18
	14	近内大館航空写真	-----	18
	15	近内館空中写真	-----	19
	16	近内館遠景	-----	19
	17	近内館	-----	20
	18	近内館帯郭	-----	20
	19	近内館	-----	21
	20	近内館	-----	21
	21	" 空中写真	-----	22
	22	" "	-----	22
	23	近内大館	-----	23
	24	近内大館空中写真	-----	23
	25	"	-----	24
	26	近内大館南郭	-----	24
	27	近内地区遺物	-----	27
	28	"	-----	28
	29	"	-----	28
	30	"	-----	29
	31	"	-----	29
	32	" (Chi-05)	-----	30
	33	近内地区空中写真	-----	30
	34	近内地区 Chik-02	-----	31
	35	" Chik-03	-----	31
	36	" Chik-03	-----	32
	37	" Chik-08	-----	33
	38	" Chik-08	-----	33
	39	" Chik-08	-----	33
	40	" Chik-09	-----	34
	41	" 空中写真 Chik-10	-----	34
	42	" Chik-10	-----	35
	43	" Chik-12	-----	35
	44	小山田地区航空写真	-----	37
	45	小山田館航空写真	-----	38
	46	小山田館空中写真	-----	39
	47	小山田地区遺物	-----	46
	48	"	-----	46
	49	"	-----	47
	50	"	-----	47

Photo.	51	小山田地区遺物	48	page
	52	"	48	
	53	" Koy-02	49	
	54	" Koy-02	50	
	55	小山田館南沢	51	
	56	小山田地区空中写真	51	
	57	八木沢地区航空写真	53	
	58	磯鷄館山航空写真	55	
	59	磯鷄館山と八木沢地区空中写真	56	
	60	磯鷄館山	56	
	61	" 空中写真	57	
	62	" "	57	
	63	八木沢新館・古館航空写真	58	
	64	八木沢新館空中写真	59	
	65	八木沢新館空堀	59	
	66	八木沢新館三の郭	60	
	67	" 南西の祠	60	
	68	" 主郭の祠	60	
	69	八木沢古館空中写真	61	
	70	八木沢地区遺物	65	
	71	"	65	
	72	" Yag-14	66	
	73	"	66	
	74	" Yag-06	67	
	75	" Yag-05	67	
	76	磯鷄地区 So-09、So-10	68	
	77	" So-10	68	
	78	" So-09	69	
	79	" So-11	69	
	80	八木沢地区 Yag-01	70	
	81	" Yag-01	70	
	82	" 空中写真 Yag-11	71	
	83	" Yag-11	71	
	84	高浜地区航空写真	73	
	85	高浜地区遺物	78	
	86	"	79	
	87	"	79	
	88	"	80	
	89	"	80	
	90	"	81	
	91	"	81	
	92	"	82	
	93	"	82	
	94	高浜地区空中写真 Ta-01	83	
	95	高浜地区 Ta-01	83	
	96	高浜地区空中写真 Ta-02、03	84	
	97	" Ta-04	84	
	98	" Ta-05	85	
	99	高浜地区 Ta-05	85	
	100	" Ta-05	86	
	101	" Ta-06	86	

I 遺跡の保護のために

1. 遺跡のもつ意味

重要な遺跡

宮古市内には260ヶ所以上の遺跡が所在しており、これらのなかには沿岸地域のみならず全国的に見ても重要な遺跡が少なくありません。たとえば縄文時代の遺跡としては、崎山貝塚・嶽ヶ崎の館山貝塚また磯鶏地区の貝塚群など沿岸地域に特徴的な貝塚遺跡があり、奈良・平安時代になると鉄の生産や加工に関する集落、また台地上あるいは尾根上など特異な立地に営まれた集落遺跡も確認されています。さらに市内には27ヶ所の城館遺跡があり、なかには千徳城のように規模・構造からいっても極めて重要な城跡もあります。

生活史解明の手がかり

これらの遺跡には縄文時代から中世あるいは近世に至る人々の生活の営みが、出土してくる遺物のように「物的な資料」として、また住居跡や生産跡などの「遺構」として残されており、これらの調査研究を行うことにより当時の生活や文化が解明されていくのです。特に古文書等の文献資料が残されていない時代においては、遺跡の考古学的調査研究が歴史解明の唯一の手段となるのです。また古文書・金石文等が残っている時代においても古文書等の文献資料と、遺跡から見出しされる調査成果とが相い補って当時の生活史が再現されるのです。

国民的財産

このように遺跡には、それぞれの地域における私達の先祖の生活史が残されており、それ自体歴史的・文化的な意味を持っていると言えます。またこれらの遺跡から解明された歴史的事実が地域の人々に周知されることにより「貴重な国民的財産」としての公共性を有することになるのです。したがって現代に生きる私達はこのような文化財を保存し、正しい理解を後の世代に伝えていく責務があるといえましょう。

2. 遺跡の保護の必要性

「貴重な国民的財産」としての公共性をもつ遺跡を、これらに対する正しい理解と共に後世に伝えるために私達は積極的な保護をしていかなければなりません。これは私達の世代のみならず、後の世代にとってもこれらの文化財に対して新たな歴史的・文化的価値を見いだすことができるように、また公共的な活用ができるようにしておかなければなりません。

遺跡の非再現性

現在においても、文化財保護が積極的に行われていなかった時代に数々の遺跡が調査さえされずに破壊されており、地域史解明に大きな空白部分を残さざるを得ない状態となっています。「地域史解明の空白部分」というのは次のような遺跡のもつ性質からおわかりいただけると思います。つまり遺跡には前述のとおり当時の生活が、状態としてまた物的なものとして残されているわけですが、それらは常に地域（立地・環境）と時期という属性をもっているのです。したがってこの二つの絶対的要素に限定されている以上は全く同じ遺跡というものは存在しません。たとえば嶽ヶ崎上町のある地点に残された（地域）縄文時代早期（時期）の遺跡というのはそれひとつしかなく、もしこの遺跡を破壊してしまった場合には同じ成果を他に求めることはできず、その地域のその時代のできごとは全く探る手がかりを失ってしまい「地域史の空白部分」となってしまいます。遺跡を破壊するということは現在までの私達の歴史を自ら破壊することであり、しかもこの破壊は二度ととりかえしのつかないものなのです。したが

って遺跡の破壊を未然に防ぐことが重要な責務となってくるのです。

3. 遺跡の分布図について

遺跡の破壊を無くし保存していくためには、まず第一にどこに・どのような遺跡が存在しているかを調べる必要があるということで昭和57年度より分布調査を実施しています。第Ⅲ章以下は今年度の調査成果をまとめたもので、各地区ごとに遺跡の分布図と各々の遺跡で地表採集された資料、またかつて出土した資料等を示してあります。

遺跡の分布図に表わしたアミ点の部分は、現況で把握できる遺跡部分を示したもので、その他の部分に全く遺跡が存在しないということを表わしたものではありません。土中に埋蔵されている文化財であるために地表調査で全てを判断することは不可能なわけです。分布図に示した遺跡部分についてはもちろんですが、その近辺地域で土木工事等の予定のある方は教育委員会に問い合わせして下さい。

4. 遺跡についての問い合わせ

土木工事等の開発事業により遺跡の現況を変更する場合は文化財保護法による届出が必要です。その他遺跡についての問い合わせは下記にお願いいたします。

宮古市新川町2番1号 宮古市教育委員会社会教育課 電話2-2111 内線268

II 分布調査の概要

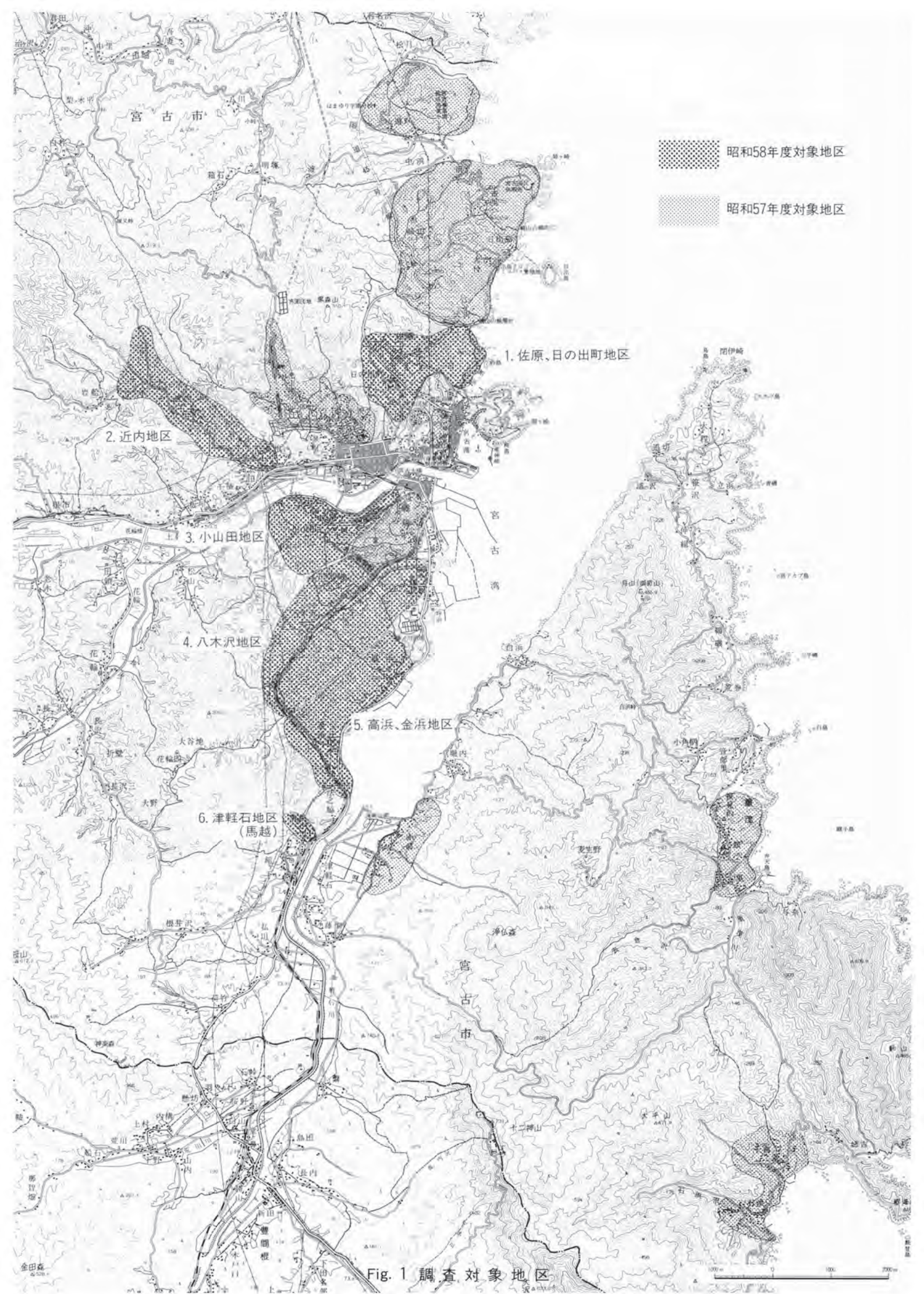
調査対象地域

調査は宅地造成工事等の開発が予想される市街・近郊地域と、都市計画等の大規模開発が策定されている地域を対象として実施した。下表に対象地域・確認遺跡数等を示す。

表1 分布調査対象地域

Fig1番号	地区名	略称	遺跡数	備考
1	佐原・日の出町地区	Sab・Hi	8	佐原(平松)地区～4遺跡確認(Sab-01～04) 日の出町地区～4遺跡確認(Hi-01～04)
2	近内地区	Chik	15	近内地区で13遺跡確認その他関連2遺跡 昭和59年度より都市計画事業開始予定
3	小山田地区	Koy	6	昭和初期に工場用地として2遺跡消滅
4	八木沢地区	Yag	18	港湾埋立に係る磯鶏地区も含まれる
5	高浜・金浜地区	Ta・Ka	13	高浜地区～6遺跡確認(Ta-01～06) 金浜地区～7遺跡確認(Ka-01～07)
6	津軽石地区(馬越)	Tu	2	同地区北端の馬越地区のみ調査。来年度 継続調査予定

本年度は6地域で62遺跡の確認を行った。なお津軽石地区については降雪のため一部についてしか調査できず、来年度継続して調査し一括して報告するものとする。また金浜地区については紙幅の都合上分布図のみ示し他のデータは来年度正式報告する。



III 分布調査の結果

1. 佐原・日の出町地区(Sabara-Hinode tyô)

佐原・日の出町地区は閉伊川から北へ約1.5km、標高90m～120mほどの海岸段丘及び山麓部に位置し、国道45号線の開通以後佐原団地・日の出町団地などができ宅地化が進んでいる。

遺跡は日の出町の山麓緩斜面及び沢沿いに4遺跡(Hi-01～04)および佐原の平松地区に4遺跡(Sab-01～04)が確認された。

佐原地区

佐原地区では大沢の南の海岸段丘上(Sab-03)、また南東に開く洞状の部分(Sab-01,02)などに遺跡が所在している。これらの地域は現在ほとんど植林地となっており遺物の採集はむずかしかったが、幸い中嶋隆氏所蔵の資料の中にこの地区の遺物があったので借用して提示した。(Fig-3, 1～13,15)これらによれば縄文時代早期末から前期及び中期末葉の遺物が採集されており、特に胎土に繊維を含むものが多い。またFig-4、27～32の石器も同地区の出土遺物である。



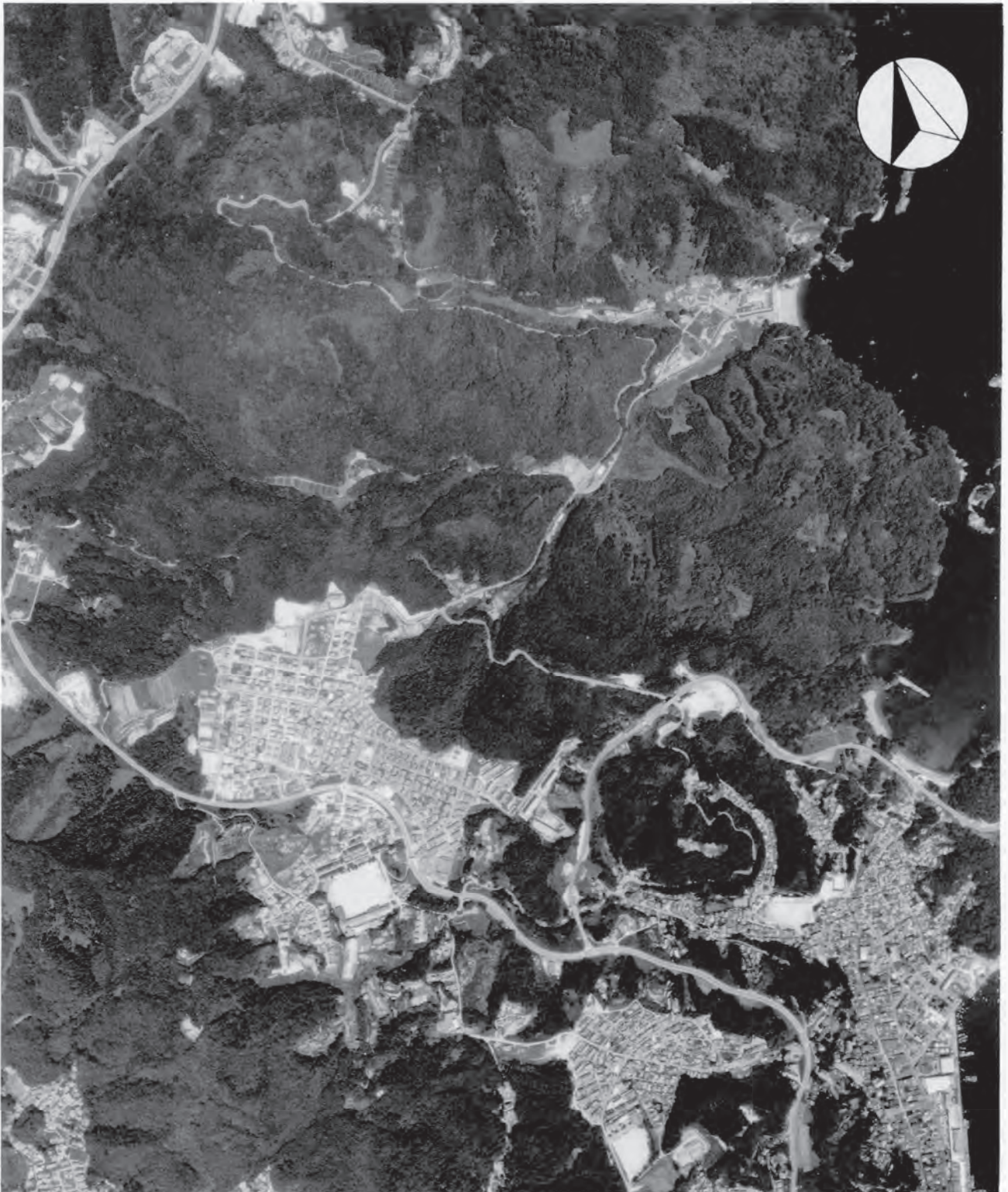
Fig. 2

佐原・日の出町地区遺跡分布図

日の出町地区

日の出町地区では、第二中学校周辺に遺跡が集中する。二中南の沢からはFig-4、17~26に示す縄文時代前期・中期の遺物の他にFig-3、14の弥生時代の遺物も出土している。また二中西の沢ではFig-5、33,34のファイゴの羽口が出土している。また36は二中北東の沢(鉄くそ沢)から出土したといわれるもので、外径ほぼ15cmを計る大型のファイゴ羽口である。また35は常安寺から日の出町に抜ける打手ヶ沢(Hi-04)から出土したもので住居跡からの出土品のようである。

註) 以上は中嶋隆氏の御教示と同氏所蔵の資料による。



佐原・日の出町地区

photo. 2

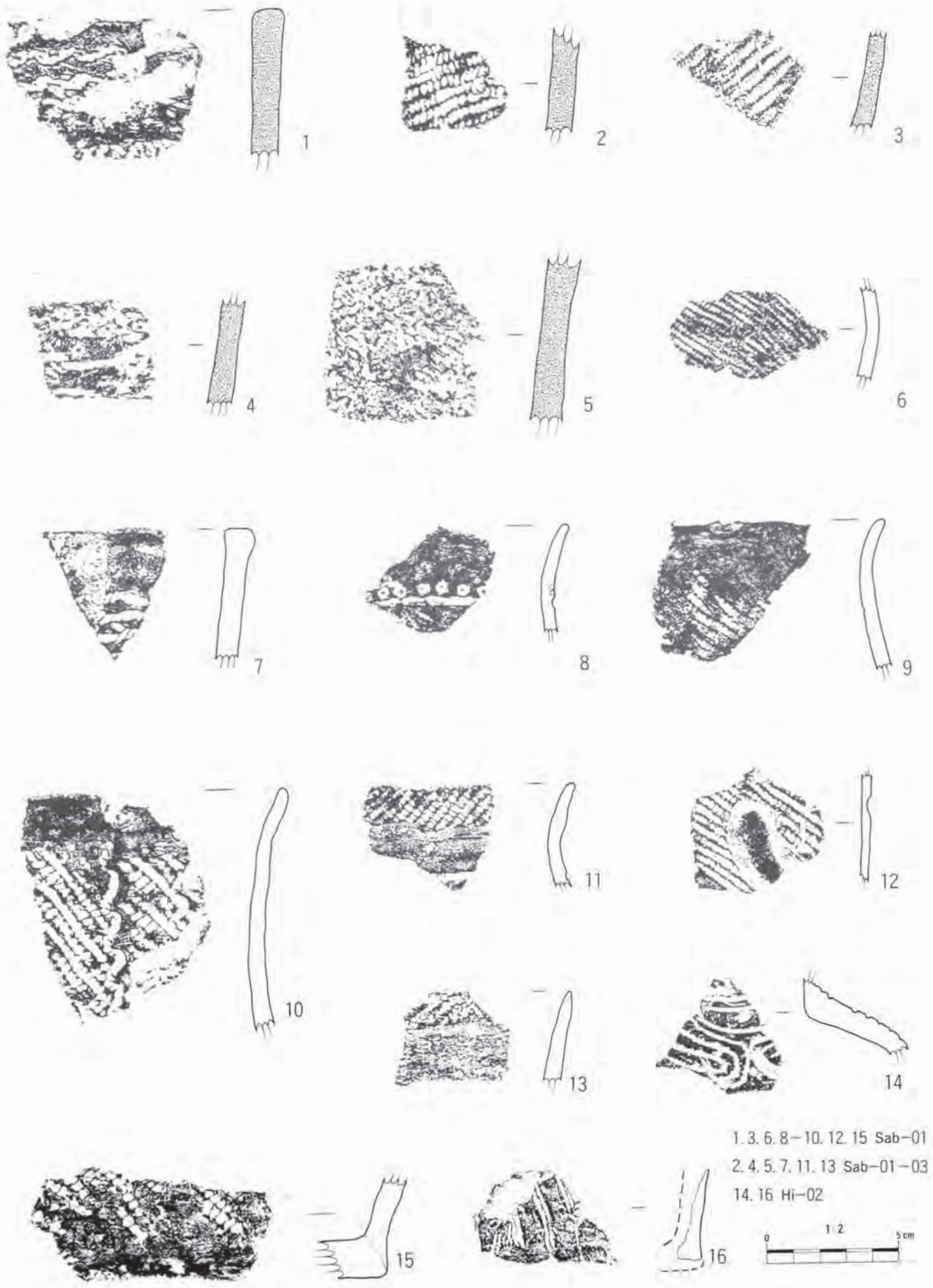
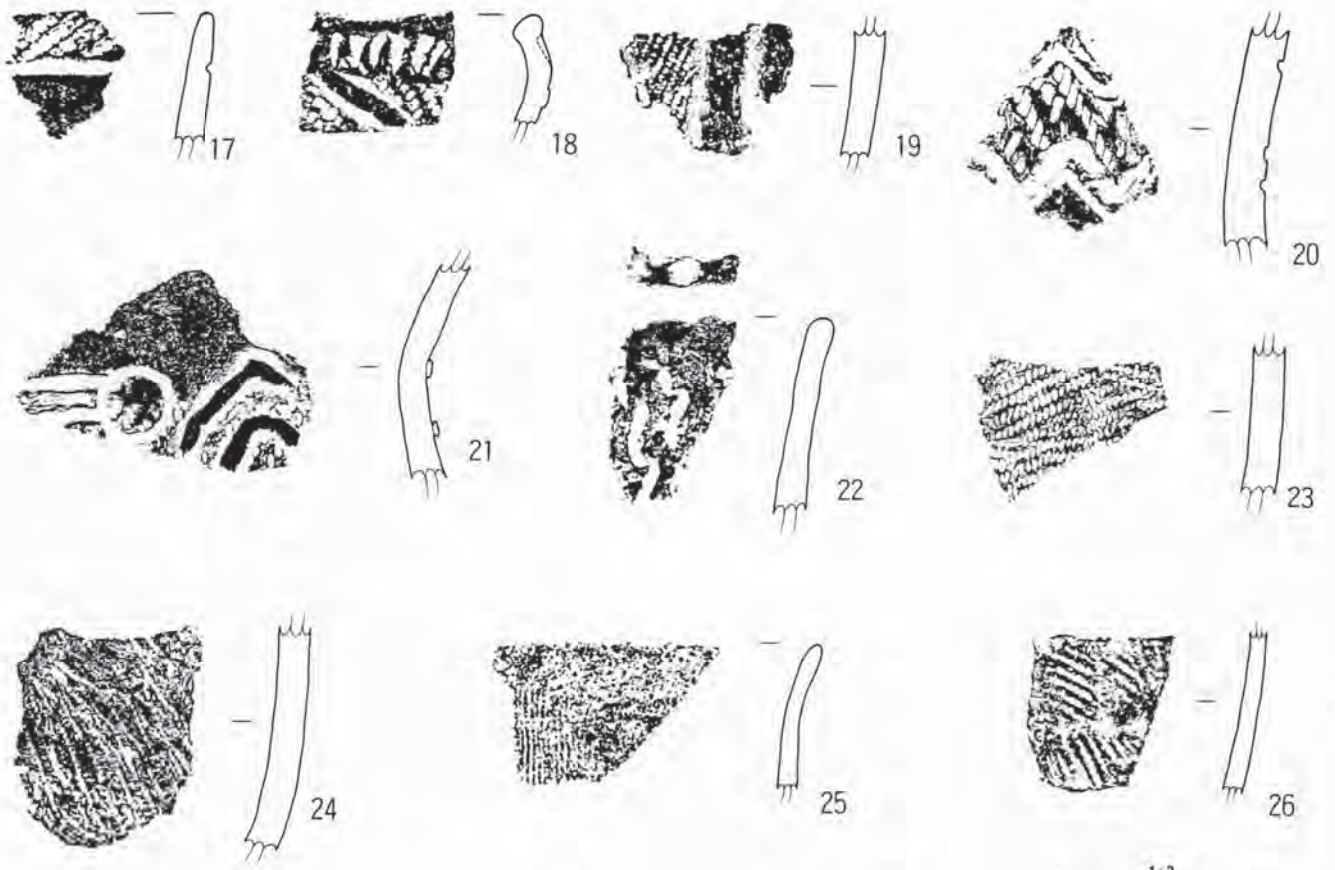
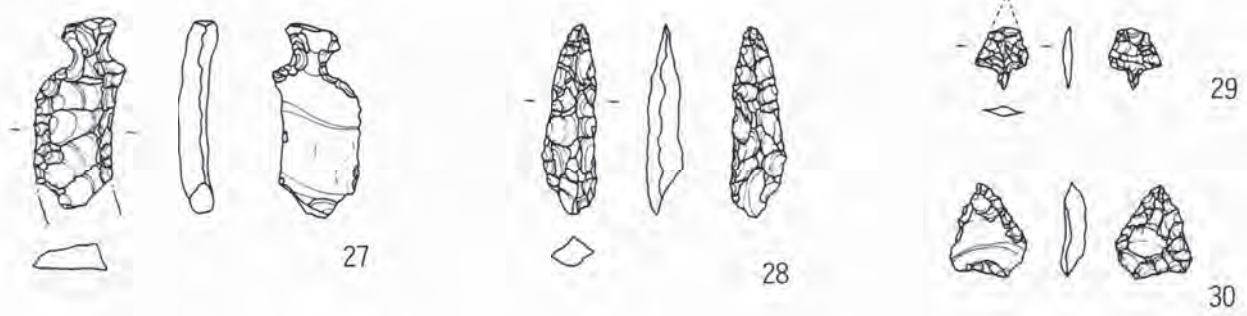
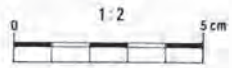


Fig. 3

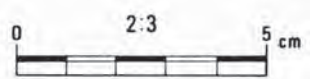
佐原・日の出町地区遺物



17-26 Hi-02

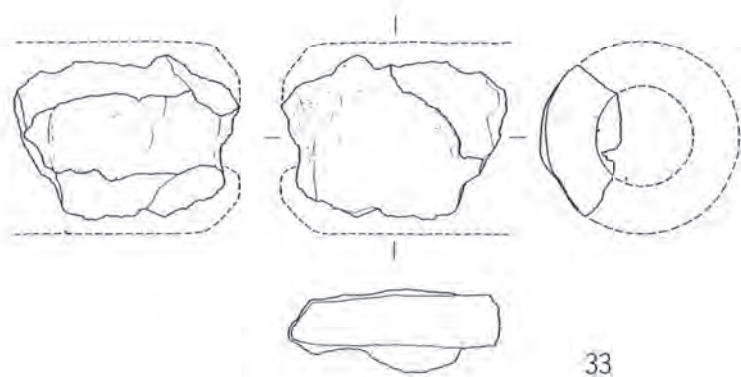


27-32 Sab-01-03

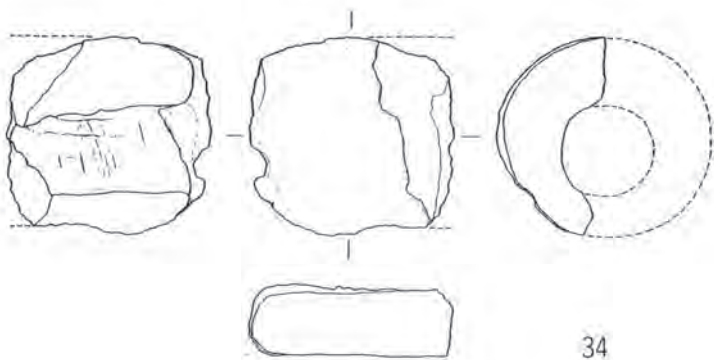


佐原・日の出町地区遺物

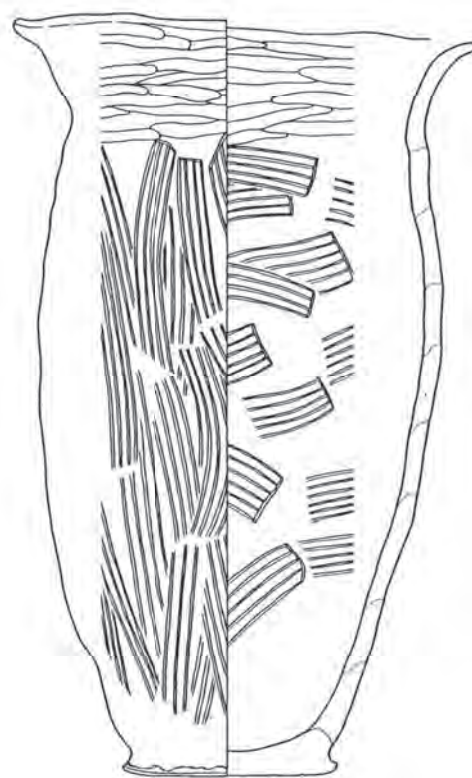
Fig. 4



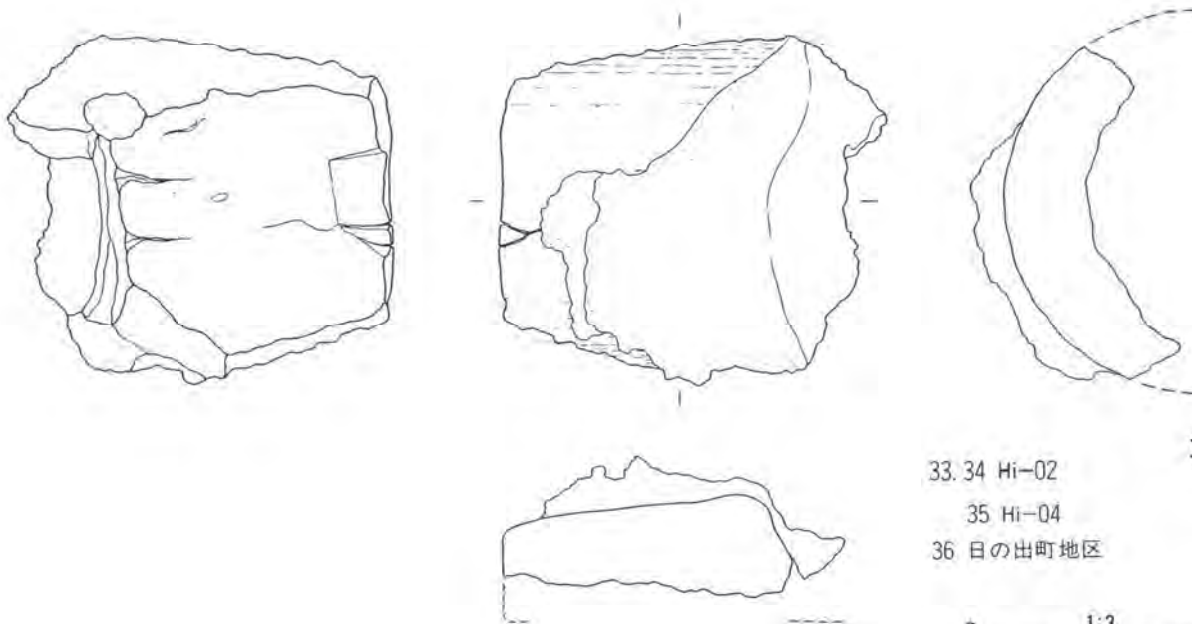
33



34



35



36

33. 34 Hi-02
 35 Hi-04
 36 日の出町地区

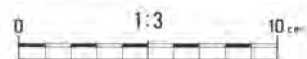
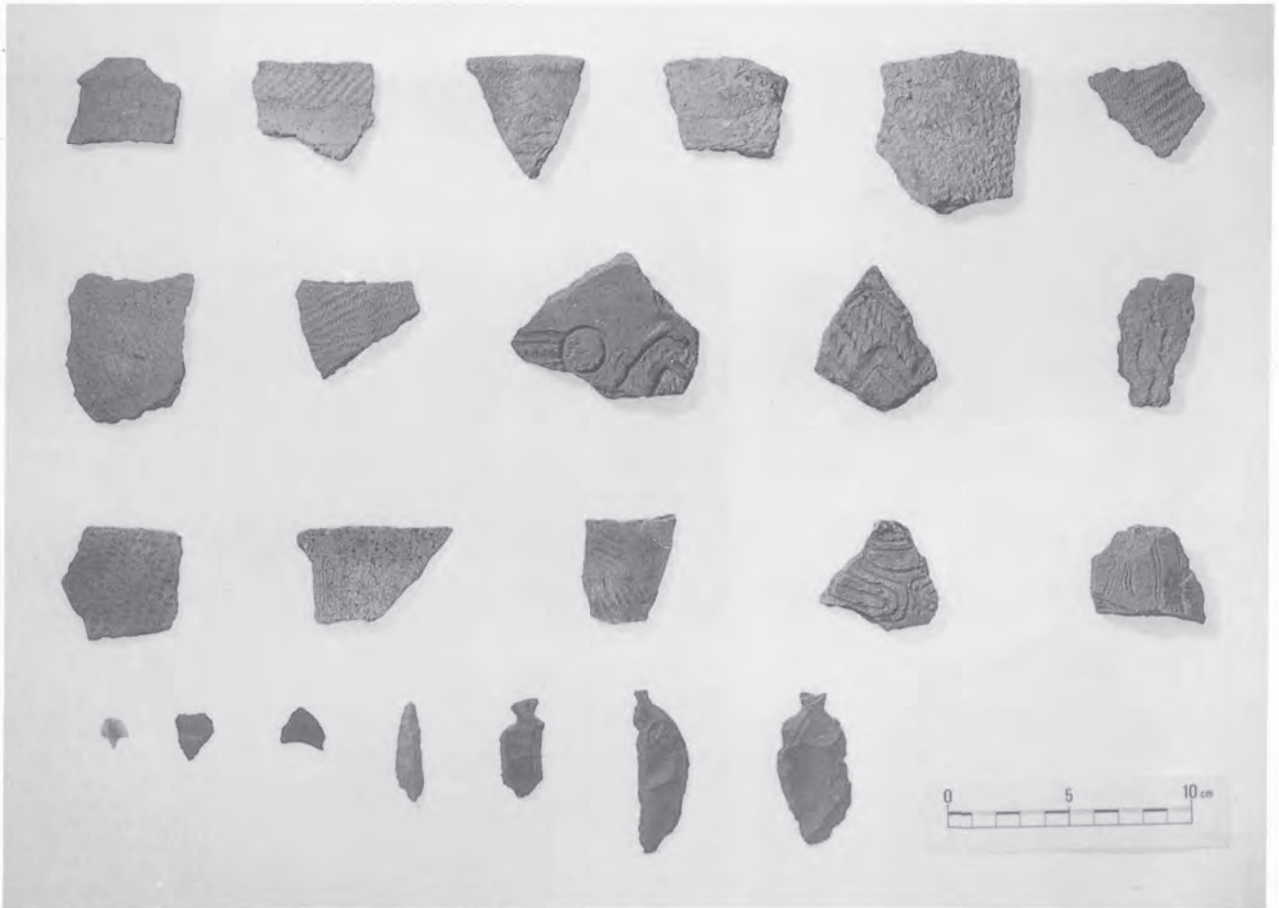


Fig. 5

日の出町地区遺物



佐原・日の出町地区遺物

Photo. 3



佐原・日の出町地区遺物

Photo. 4



Photo. 5

日の出町地区遺物



佐原地区（南西より）

Photo. 6



佐原地区Sab-01~03（北西より）

Photo. 7



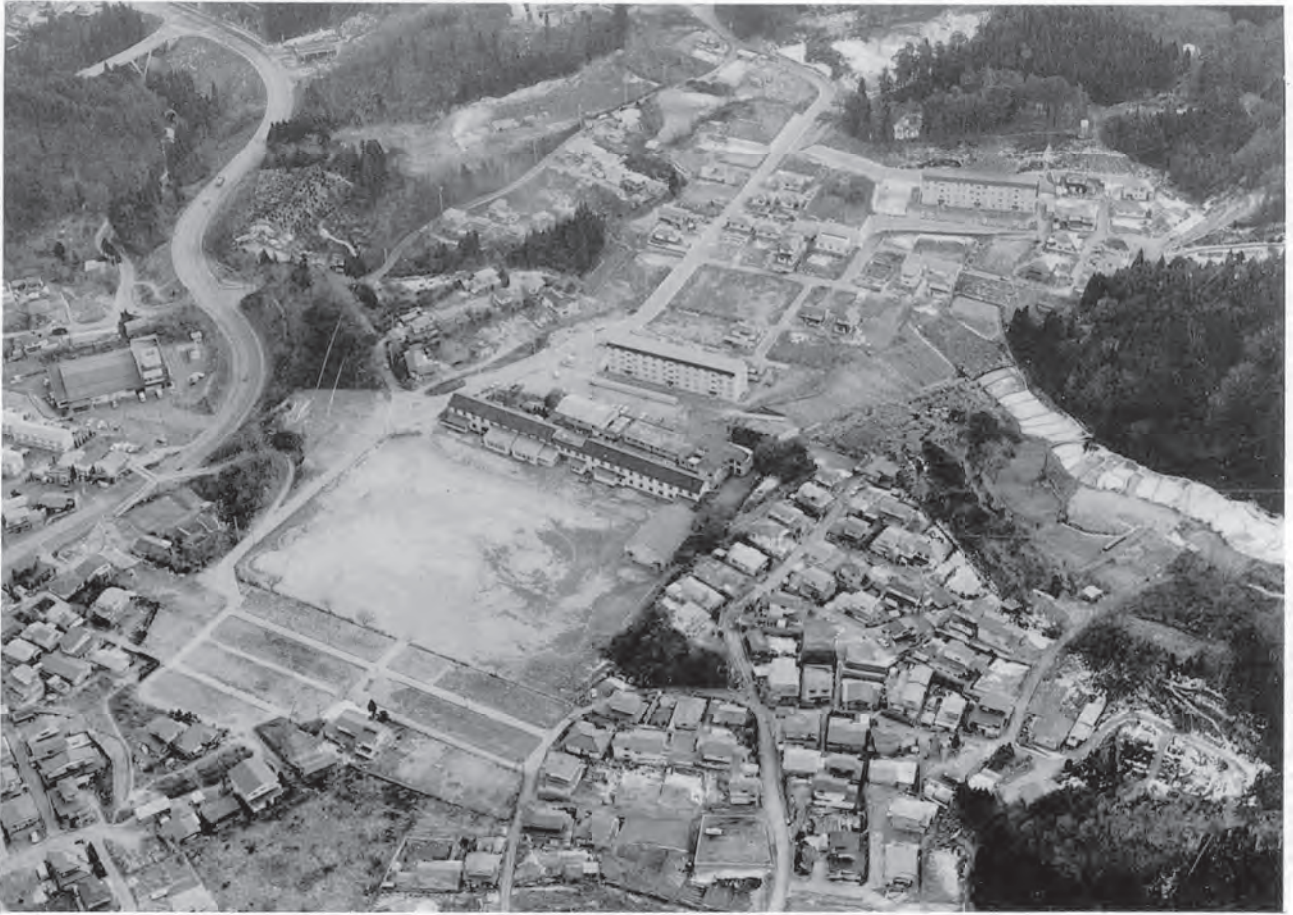
Photo. 8

Sab-03 (北より)



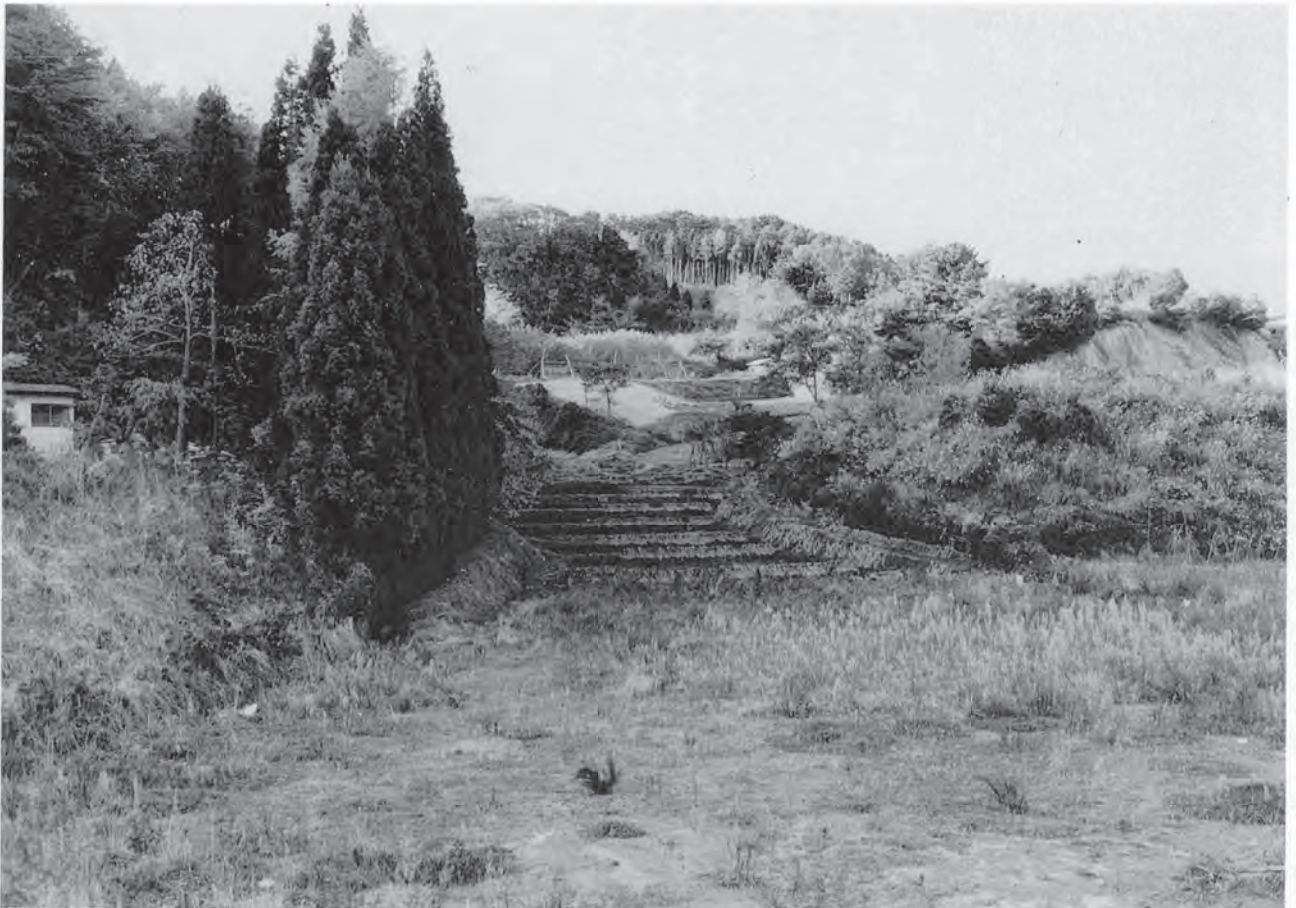
Photo. 9

Sab-02 (西より)



日の出町地区（北より）

Photo. 10



Hi-02（東より）

Photo. 11

2. 近内地区 (Chikanai)

近内地区は閉伊川に北東から注ぐ近内川の流域地区で、近内川によって開かれた幅200～300mの沖積地と山麓緩斜面及び山地に地形分類される。この地域では13遺跡を確認し、さらに近辺関連地域で2遺跡を踏査した。13遺跡のうちChik-04（近内大館）、Chik-06（近内館）は城館遺跡で、標高70～80mの山地上に所在している。他の遺跡はほぼ山麓緩斜面に立地し縄文時代の遺跡が主体を占める。

Chik-05 近内大館の西裾野緩斜面部分で、現在畑となっている。ここからは Fig-11、94 に示すフィゴの羽口とかなりの量の鉄滓がみられた。羽口は外径10cm・内径4cmほどで端部に鉄滓が付着している。これらの他に時期を判定できる遺物は見られなかったが、近内大館との関連性も考えられる。

Chik-08 近内地区の中で最も濃密に遺物が見られる遺跡である。現在畑地として利用されており、水田となっている沖積地までの標高20m～30mのなだらかな斜面に立地している。表採資料では縄文時代の遺物が主体を占め、特に後期・晩期の遺物が多く見られる。

Chik-10 近内川上流域に位置しここから上流では沖積地は見られず山麓緩斜面が直接近内川に接している。遺跡は南向きの緩斜面に立地し近内川に注ぎ込む小さな沢をとりこんでいる。ここからは縄文時代早期～前期の遺物の他に、かつてフィゴの羽口が出土したこともあり畑には一部に鉄滓が見られた。

A地点 近内川沿いの現在水田となっているA地点からかつて Fig-11、88の遺物が出土している。
註) 表採資料の他に中嶋隆氏所蔵の資料の借用をうけた。

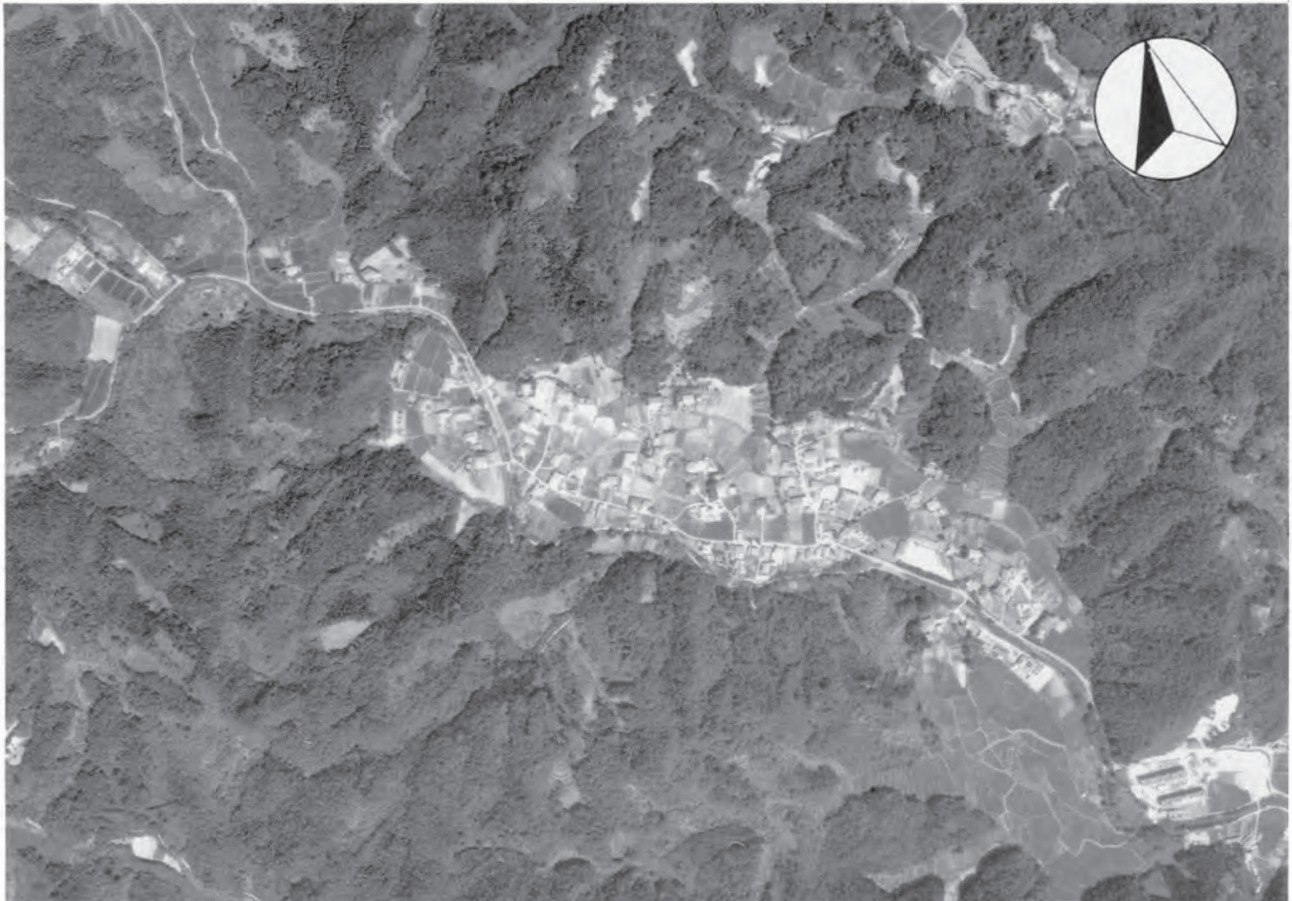


Photo. 12

近内地区



近内地区遺跡分布図

Fig. 6

近内館

近内川の中流、部落の北東にはり出す山地に築かれており、山頂部（標高70~74m）に東西方向の尾根を利用した主郭を配し、斜面には段状に帯郭をめぐらしている。

主郭の南東に空堀を隔てて長さ15m、幅10mほどの小さな郭が付されている。また南にはり出す尾根にも郭の存在が考えられる。

築城年代は明らかではないが「室町時代から戦国時代初期」(註)と考えられている。



近内館要図 (Chik-06)

Fig. 7

近内大館

近内館から南東約700mほどの南北にのびる尾根上に位置し山裾は近内川に接している。

郭は空堀を隔てて大きく二ヶ所に分かれ、尾根先端にある南の郭は標高約83mで、ここからは南に千徳城の北面を見わたすことができる。

北の郭は標高80~90mで尾根づたいに南北に伸びている。

近内大館の東側は深く入り込んだ沢で区切られ、館全体の規模は南北500m、東西250mほどである。

館の立地や位置から見て、「近内口、千徳城北面の護りとして築かれた」(註)と考えられている。



近内大館要図 (Chik-04)

Fig. 8

(註) 引用文献

田村忠博著 「宮古地方の中世史
古城物語」 1983



Photo. 13

近内館



Photo. 14

近内大館



近内館（南より）

Photo. 15



近内館遠景（南より）

Photo. 16



Photo. 17

近内館



Photo. 18

近内館帯郭(北東より)



近内館(南西より)

Photo. 19



近内館(南西より)

Photo. 20



Photo. 21

近内館(北西より)



Photo. 22

近内館(北西より)



近内大館

Photo.23



近内大館、

Photo.24



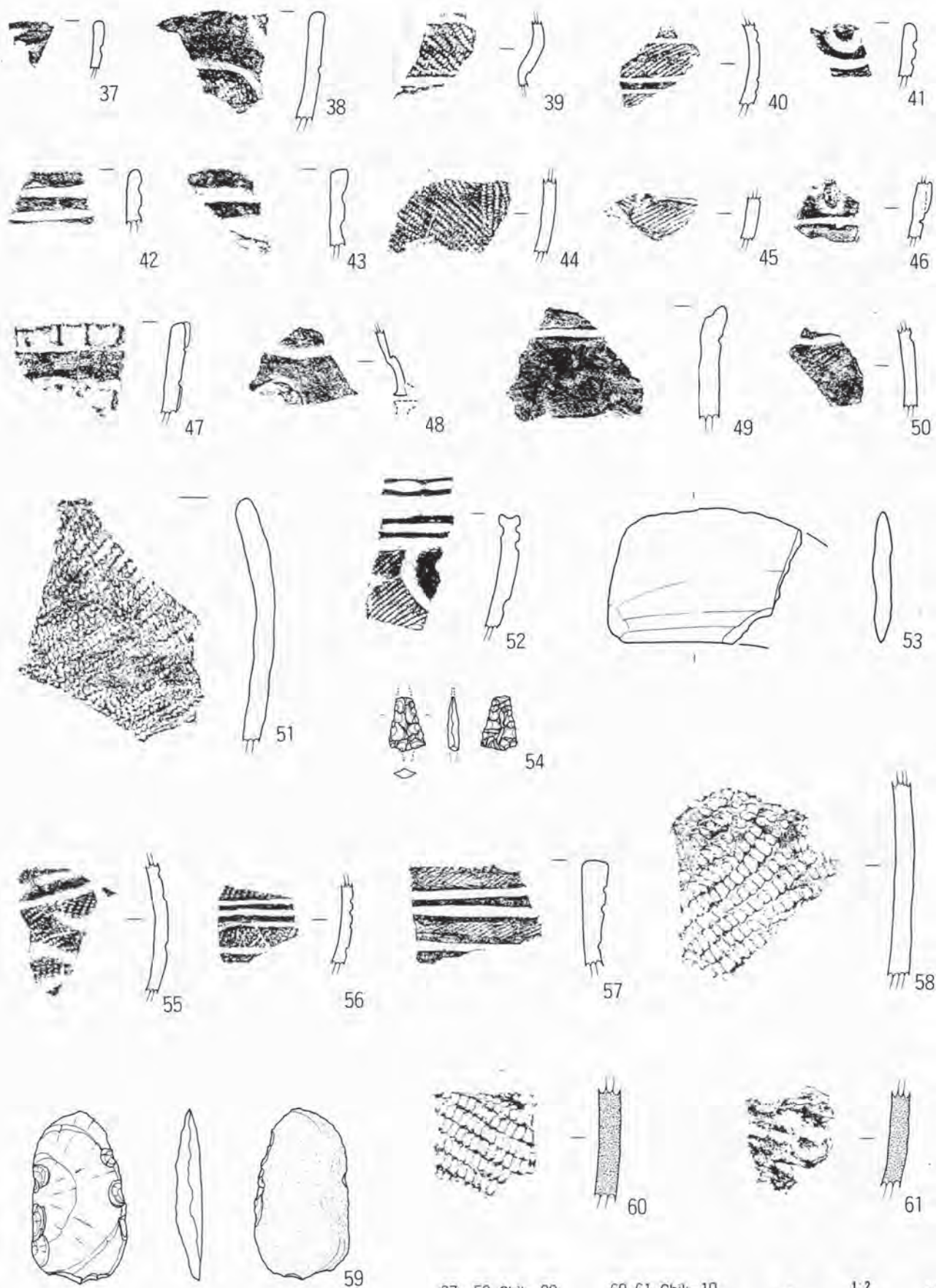
Photo. 25

近内大館(西より)



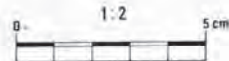
Photo. 26

近内大館(南郭東斜面)



37~59 Chik-08

60. 61 Chik-10



近内地区遺物

Fig. 9



Fig. 10

近内地区遺物

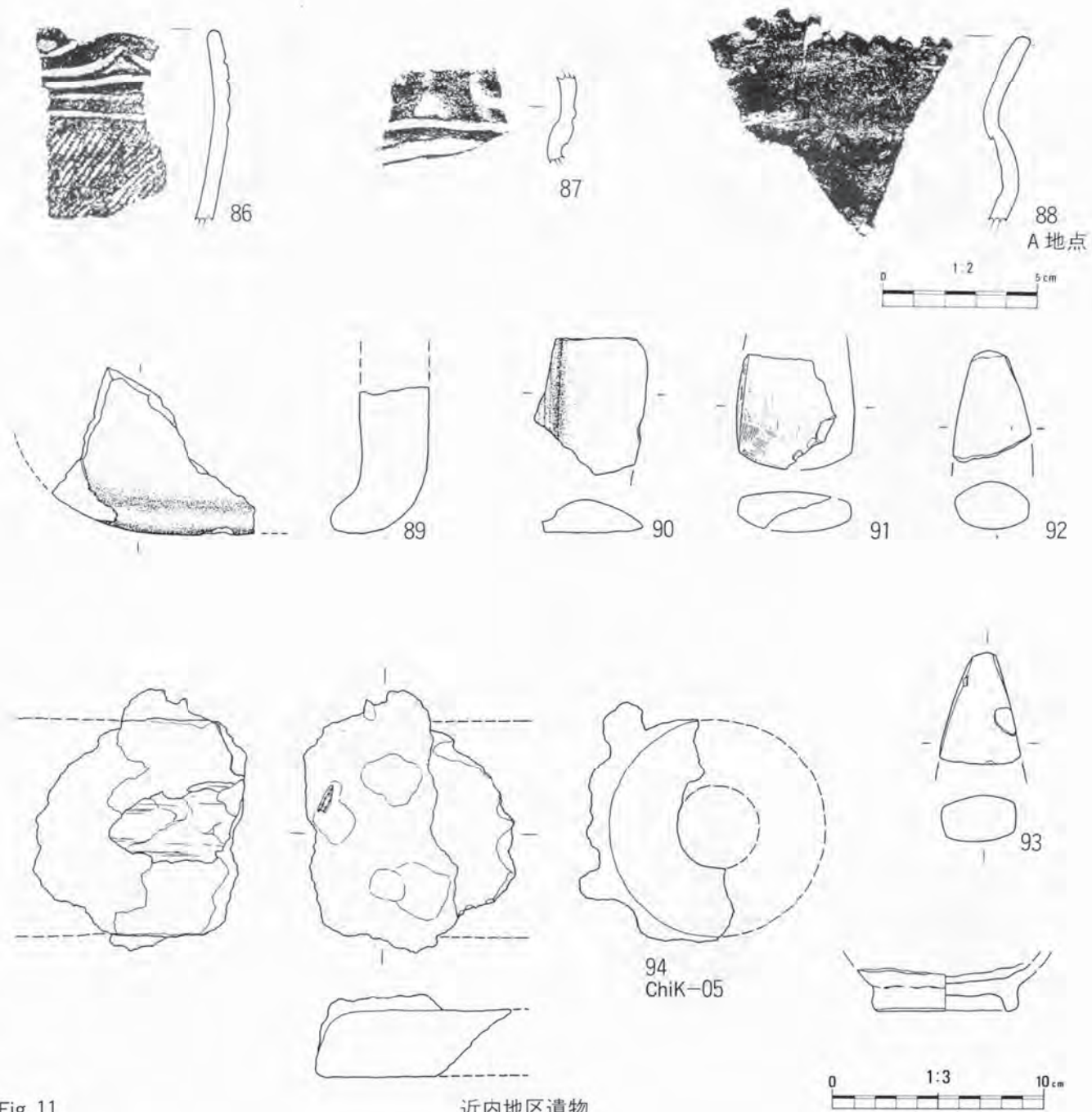


Fig. 11

近内地区遺物

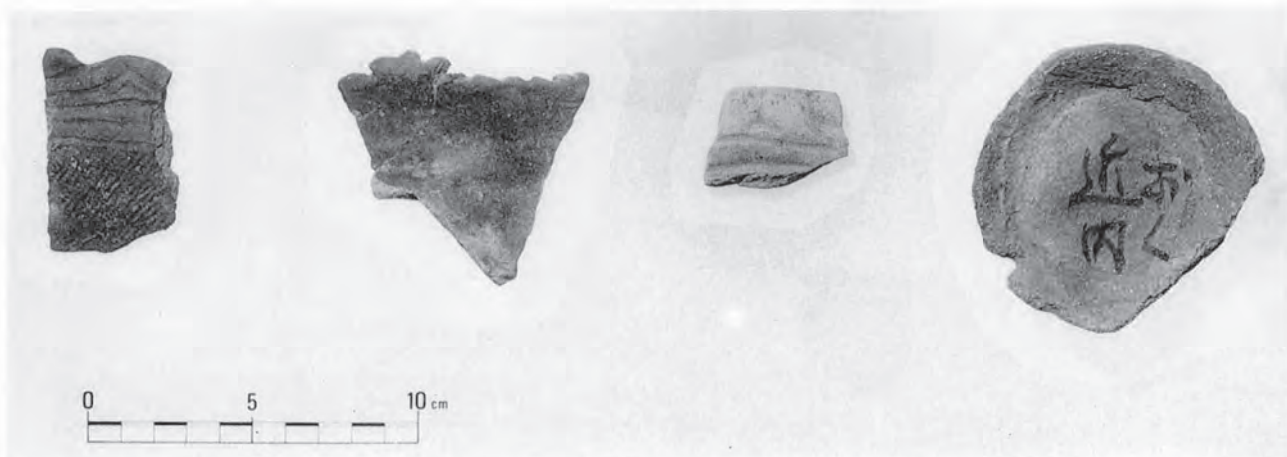


Photo. 27

近内地区遺物

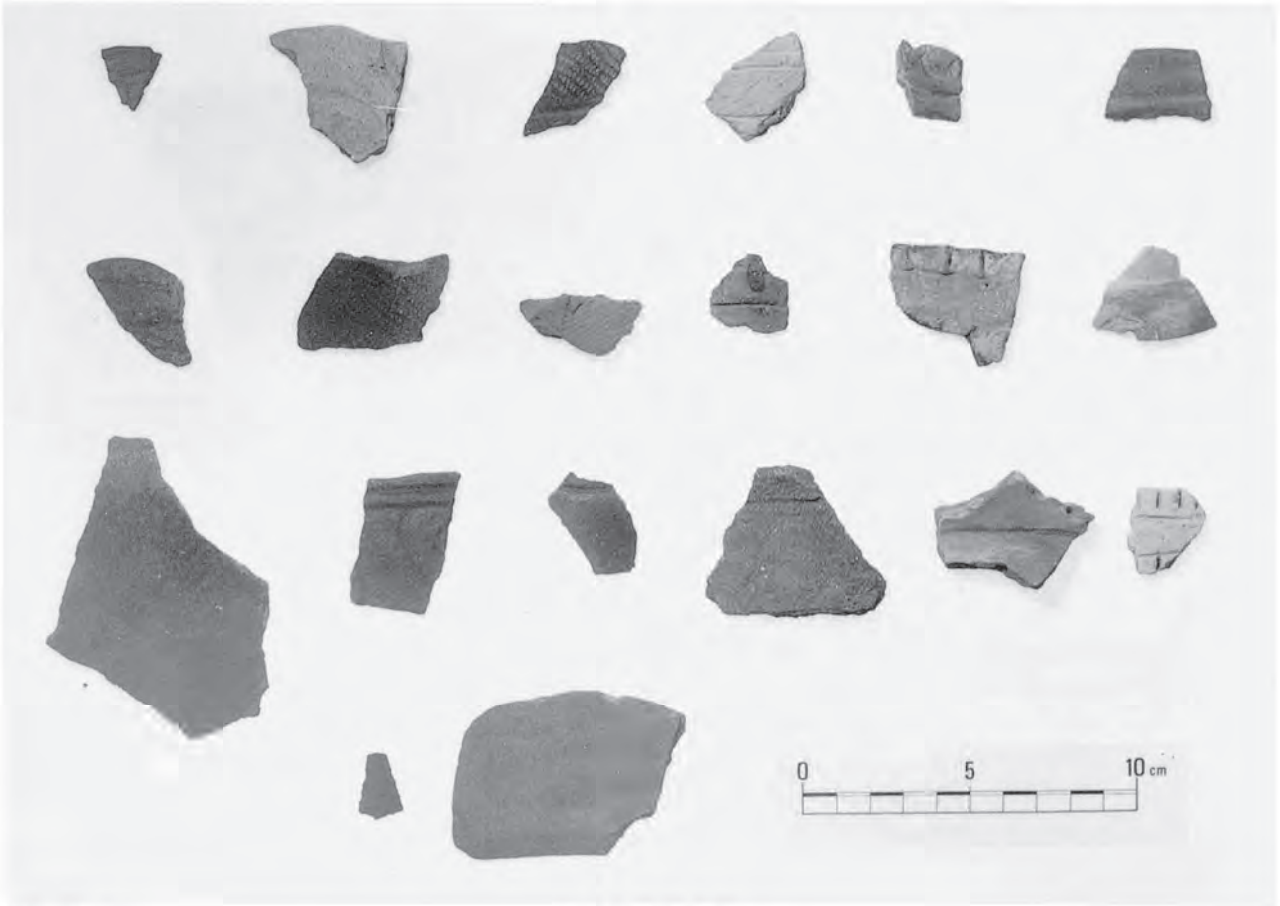


Photo. 28

近内地区遺物



to. 29

近内地区遺物



近内地区遺物

Photo. 30



近内地区遺物

Photo. 31

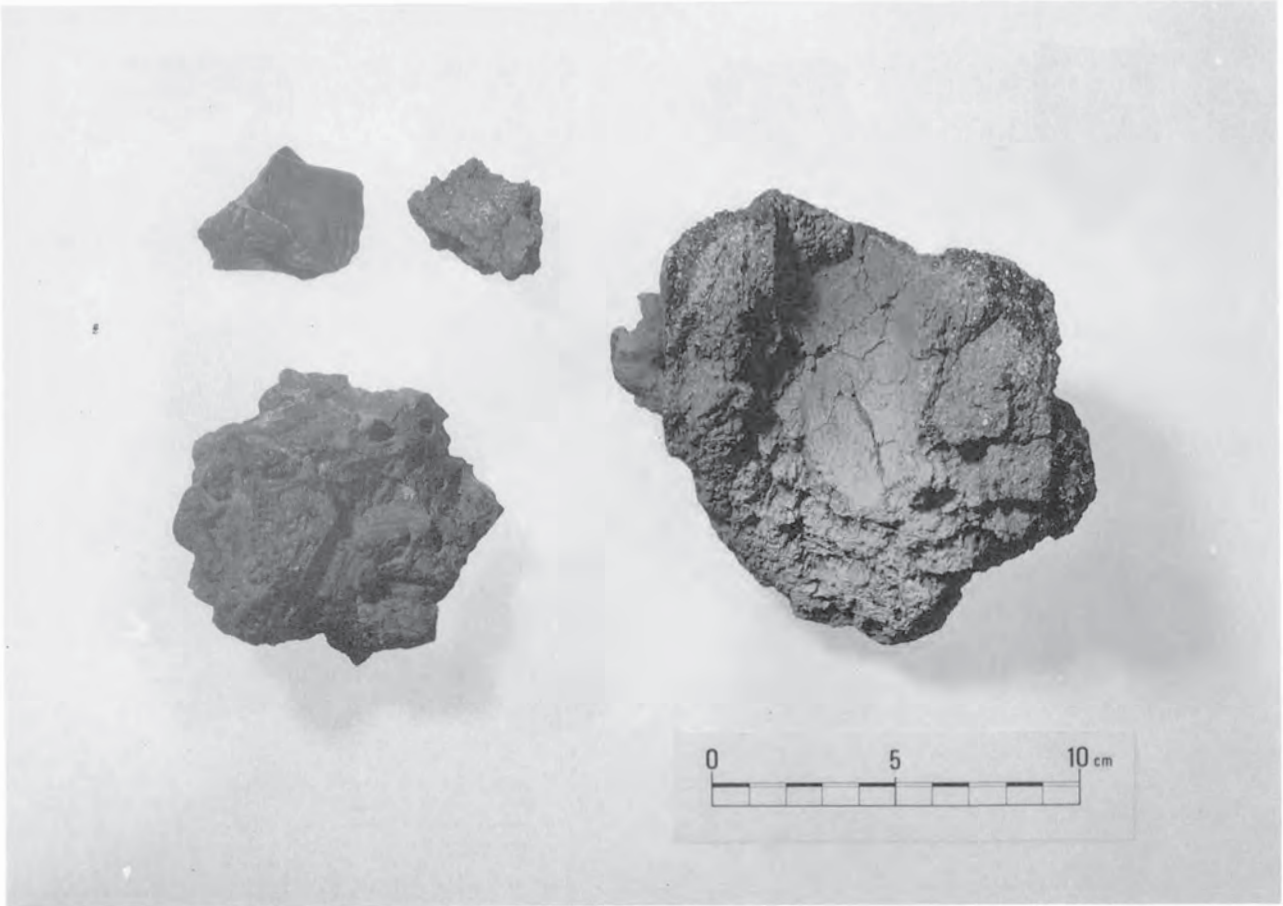


Photo. 32

近内地区遺物(Chik-05)



Photo. 33

近内地区遠景(南東より)



Chik-02(東より)

Photo. 34



Chik-03(南より)

Photo. 35



Photo. 36

Chik-03(北より)



Photo. 37

Chik-05(東より)



Chik-08(南より)

Photo. 38



Chik-08(北より)

Photo. 39

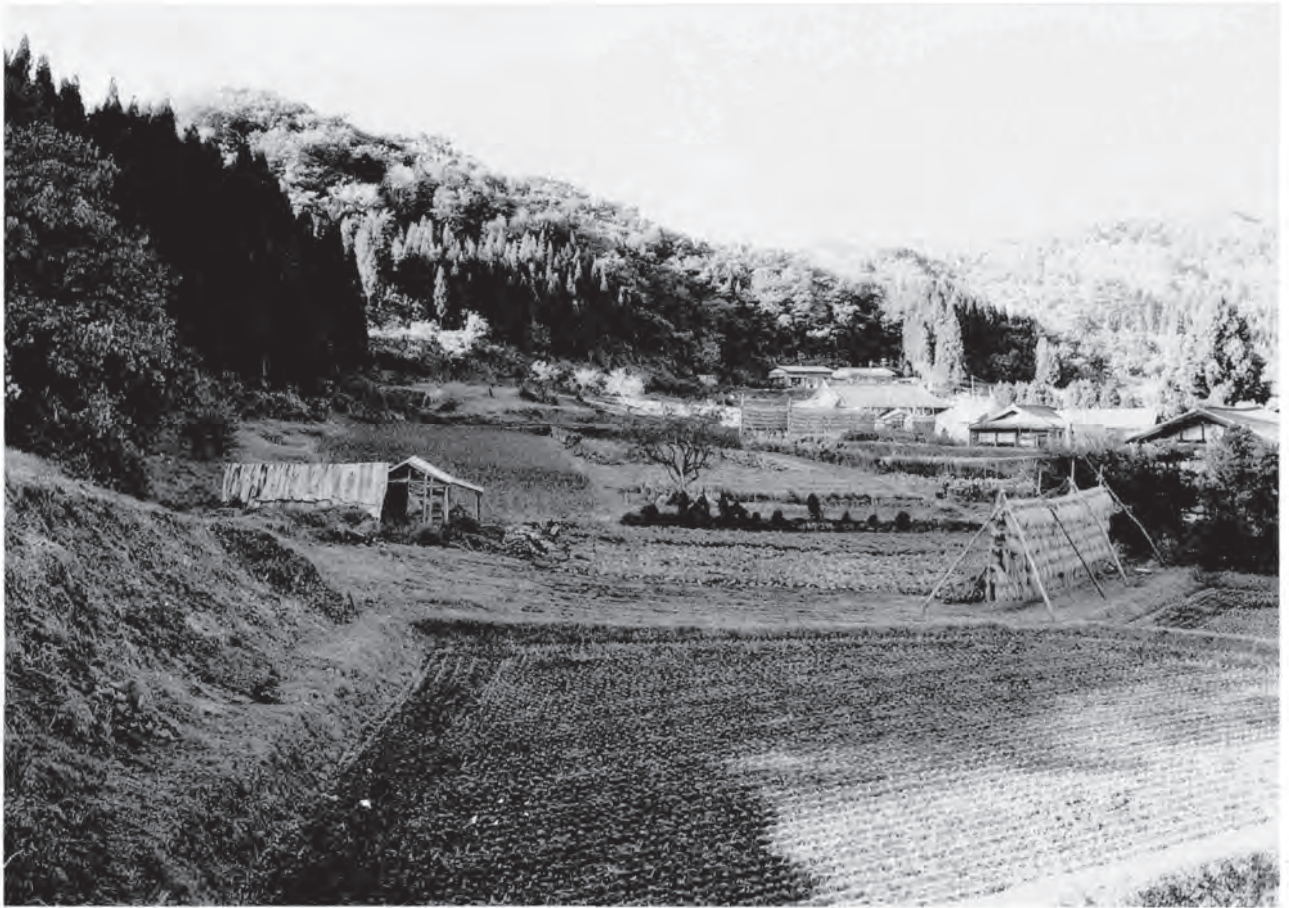


Photo. 40

Chik-09(南より)

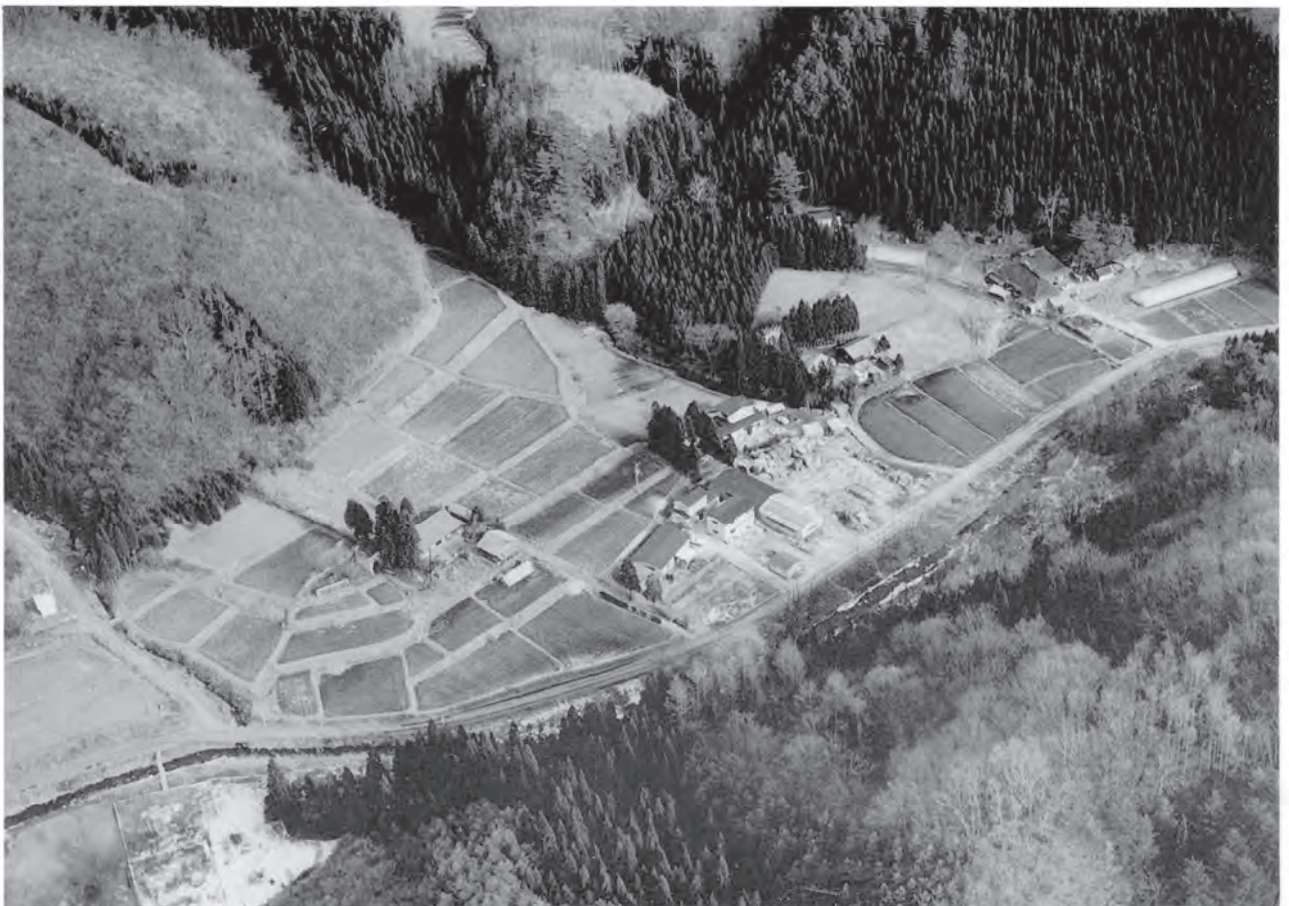


Photo. 41

Chik-10(南西より)



Chik-10(北より)

Photo. 42



Chik-12(西より)

Photo. 43

3. 小山田地区 (Koyamada)

小山田地区は閉伊川河口の南岸に位置し、地形は背後に迫る台地と、川と台地にはさまれた標高20m以下の地域に大別される。台地の下の地域は昭和12年頃から工場用地として利用されており、台地上も工場関連用地としてかなり旧状を失っている。

遺跡は台地上に館跡を一ヶ所含む4遺跡がかろうじて残っている。

Koy-01,02 現在ラサ工業の用地となっているところで、昭和12年の工場開設以前は畑地として利用されており、ここから多くの遺物が中嶋隆氏により採集されている。(Fig.15~18)

遺物は縄文時代から晩期まで見られるが、後期・晩期が主体を占めるようである。遺物量からみてもかなり大規模な遺跡であったと考えられる。またここからは明治45年頃、丸木舟が出土したといわれこの略測図が中嶋吉兵衛氏により残されている。(宮古市史 漁業交易 交易編第二章441ページ)

Koy-05 台地上の東向き斜面に立地し土師器等が出土している。現在は休耕地となっているが遺物も比較的濃密に分布しており古代の集落遺跡の可能性も考えられる。

Koy-06 小山田部落西端の台地上に位置し Fig.14,19 に示す遺物が採集されている。縄文時代前期の遺物が台地先端部より、また土師器・須恵器が背後の畑地から出土している。

ラサ工業の背後の山から張り出した尾根上の一部に人為的な造り出しと考えられる部分が見られた。工場の煙害により草木が生えておらずかなり壊落してはいるが何らかの遺構と考えられる。なお小山田地区のほとんどの遺物は中嶋隆氏所蔵のもので、借用をうけ提示した。

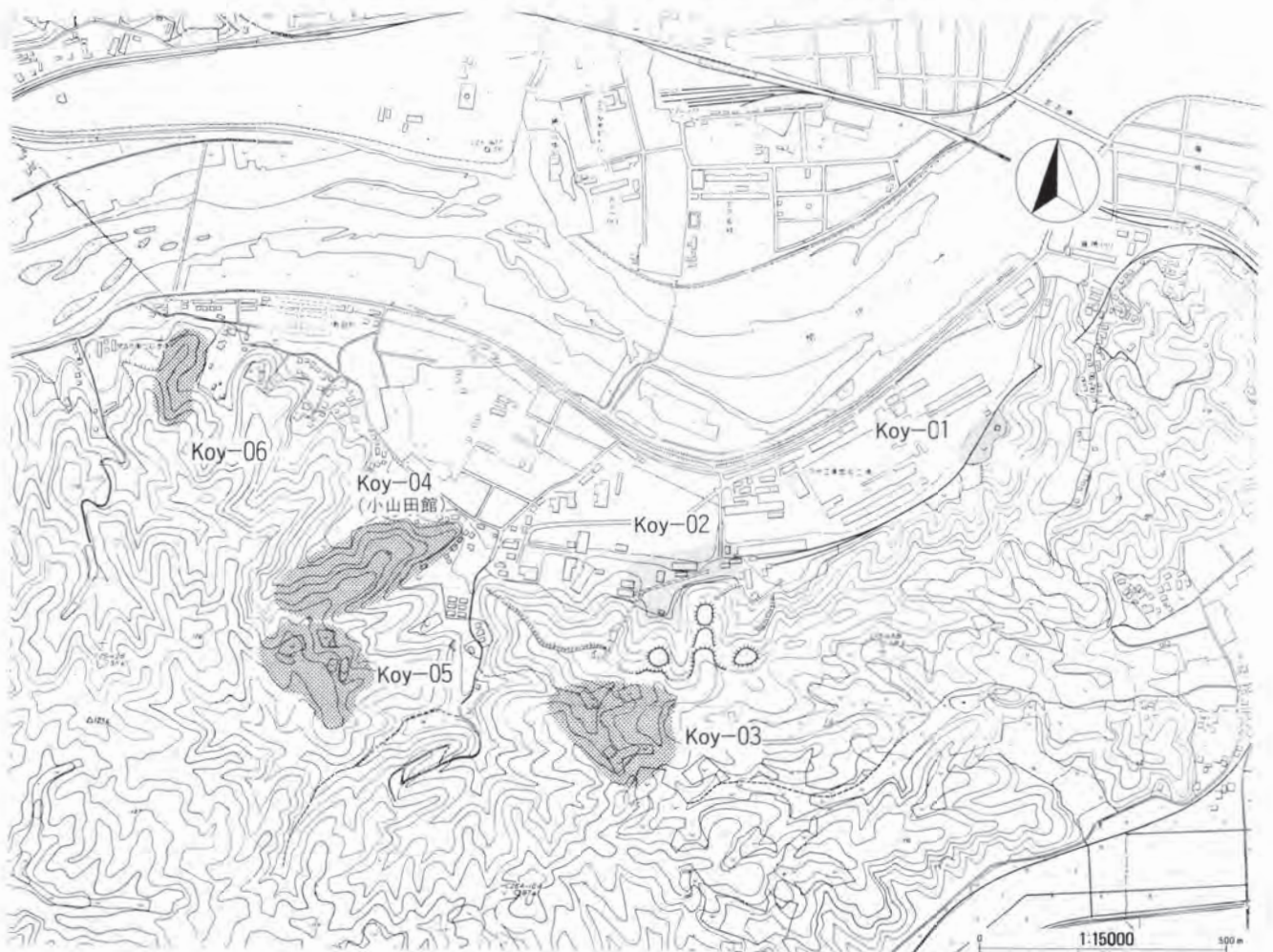


Fig. 12

小山田地区遺跡分布図



小山田地区

Photo. 44

小山田館

小山田部落の背後に張り出す尾根上に造り出された館跡で、尾根中央に空堀を設けその前後に郭を配置している。尾根基部の郭は標高約72mで尾根沿いに造り出されており中央空堀まで2段の段状の小さな郭がある。尾根先端部の郭は空堀を隔てて標高約64mの位置に造られており尾根を下りながら2段の郭が付されている。郭の範囲は尾根沿いに幅約50m、長さ180mにわたっている。

小山田地区は、鎌倉時代から海路・陸路の要所になっており古くから村落が営まれていたと言われており、この館跡も交通の要所を守るために造られたと考えられている。また築城年代築城者は不詳であるが、閉伊氏（田鎖氏）によるものと言われている

参考文献 田村忠博著「富古地方の中世史・古城物語」1983

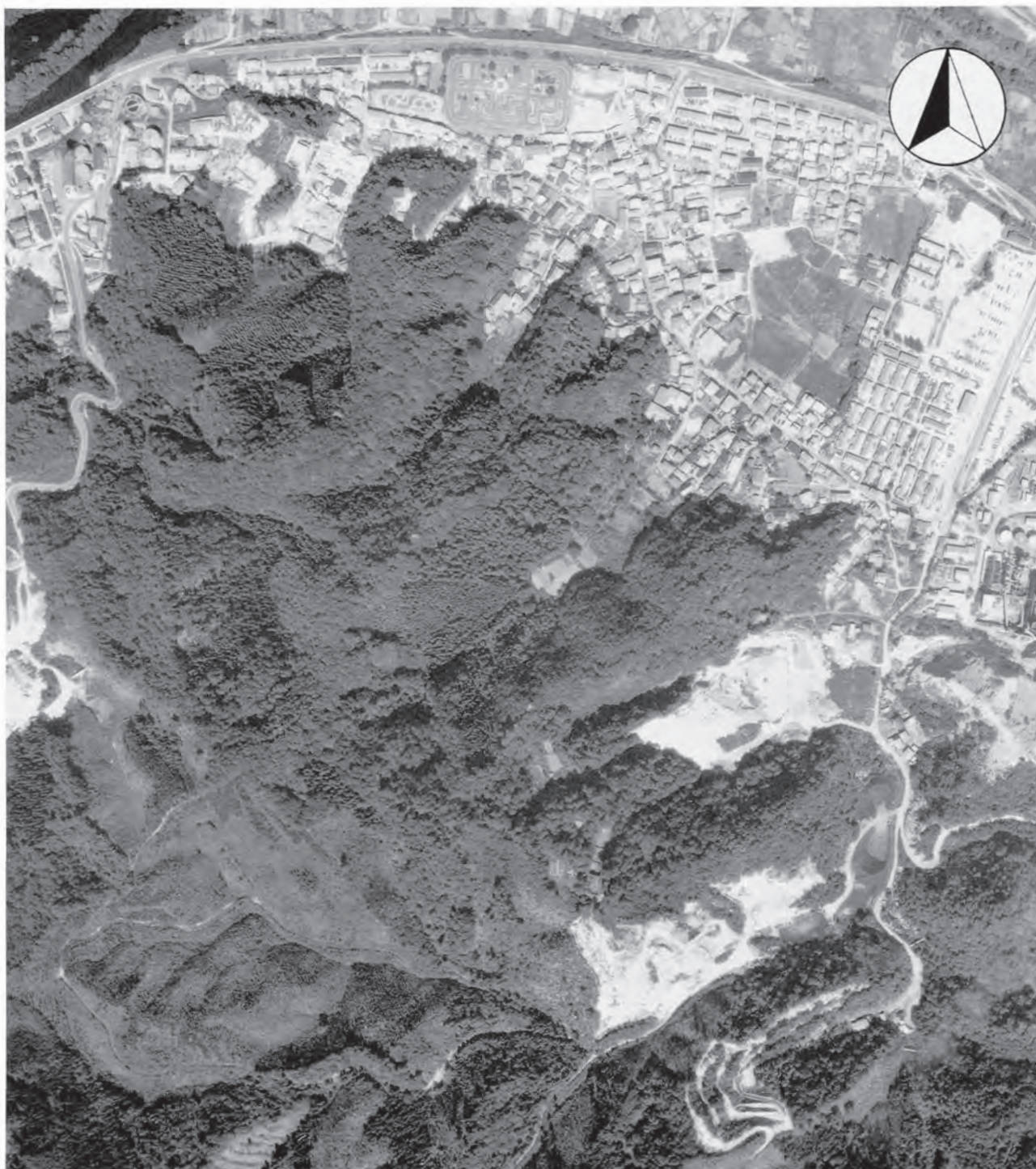
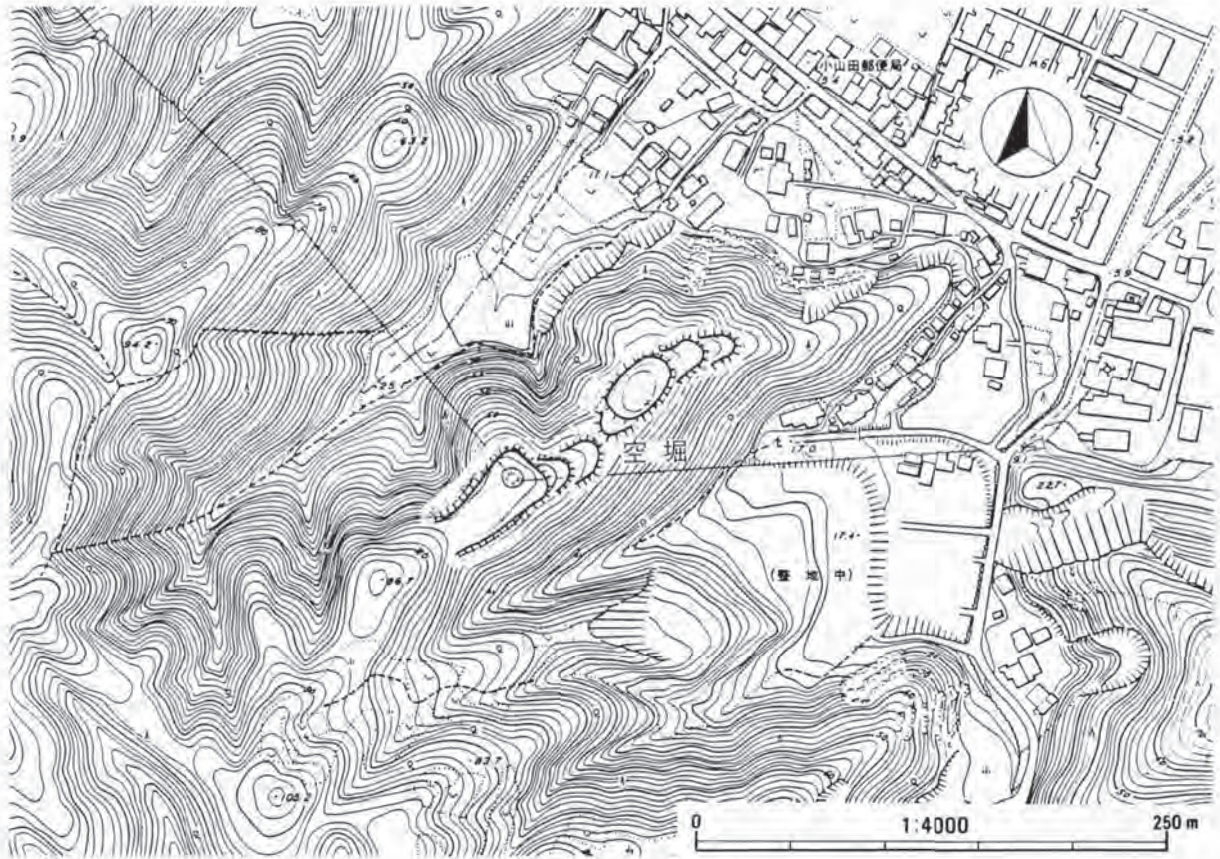


Photo. 45

小山田館跡



小山田館跡要図(Koy-04)

Fig. 13



小山田館跡

Photo. 46

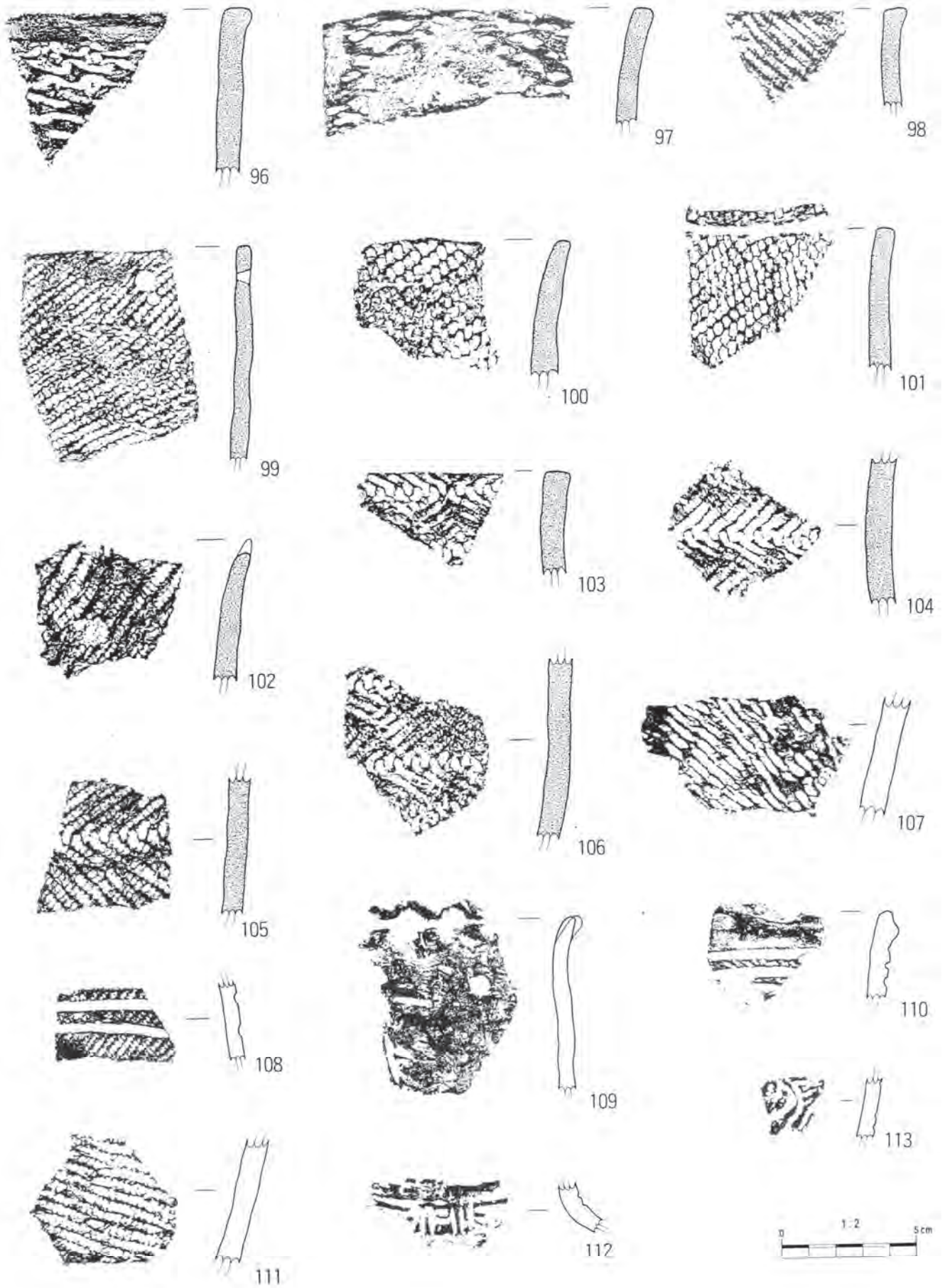
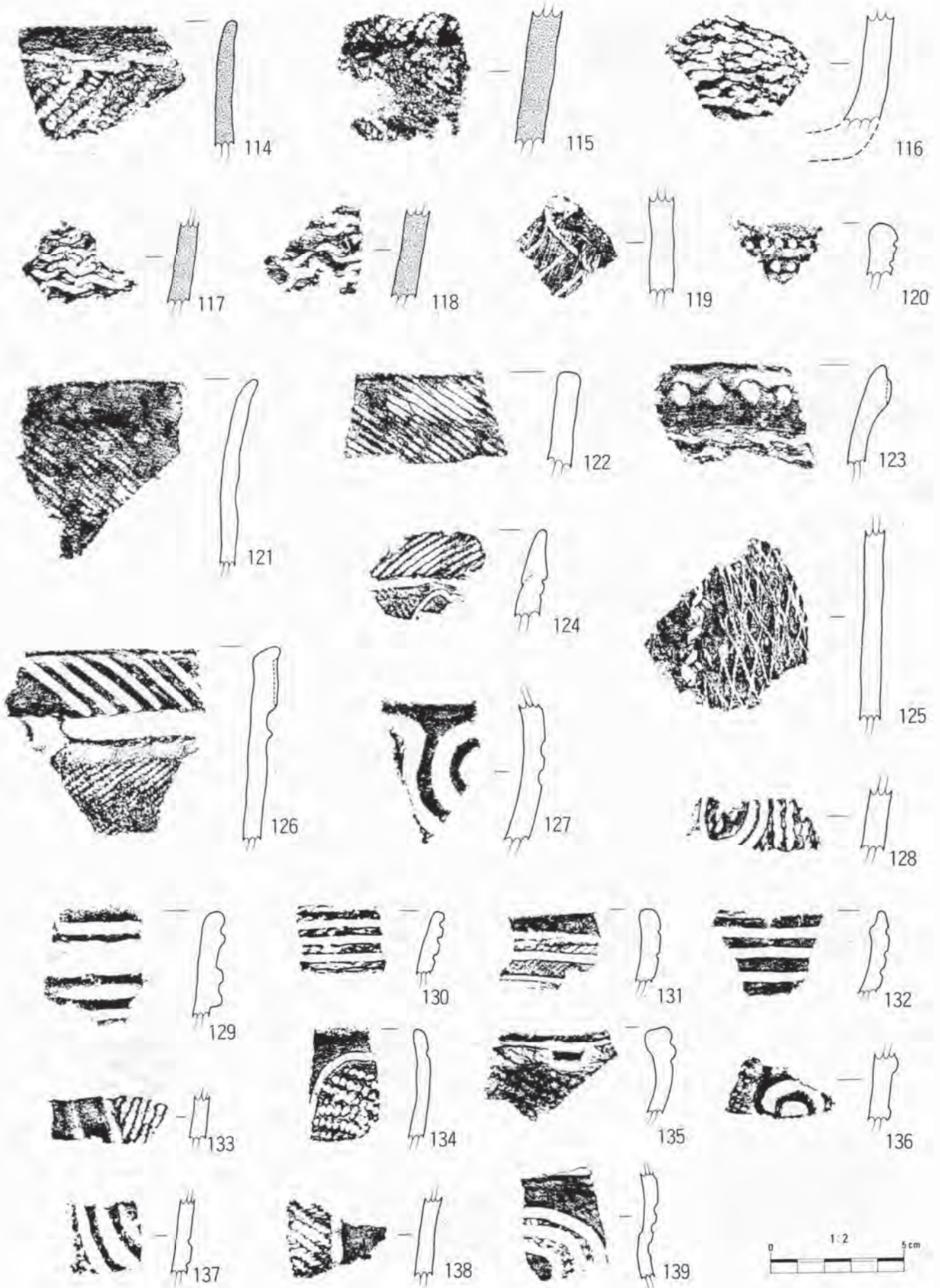


Fig. 14

小山田地区遺物



小山田地区遺物(Koy-01~02)

Fig. 15

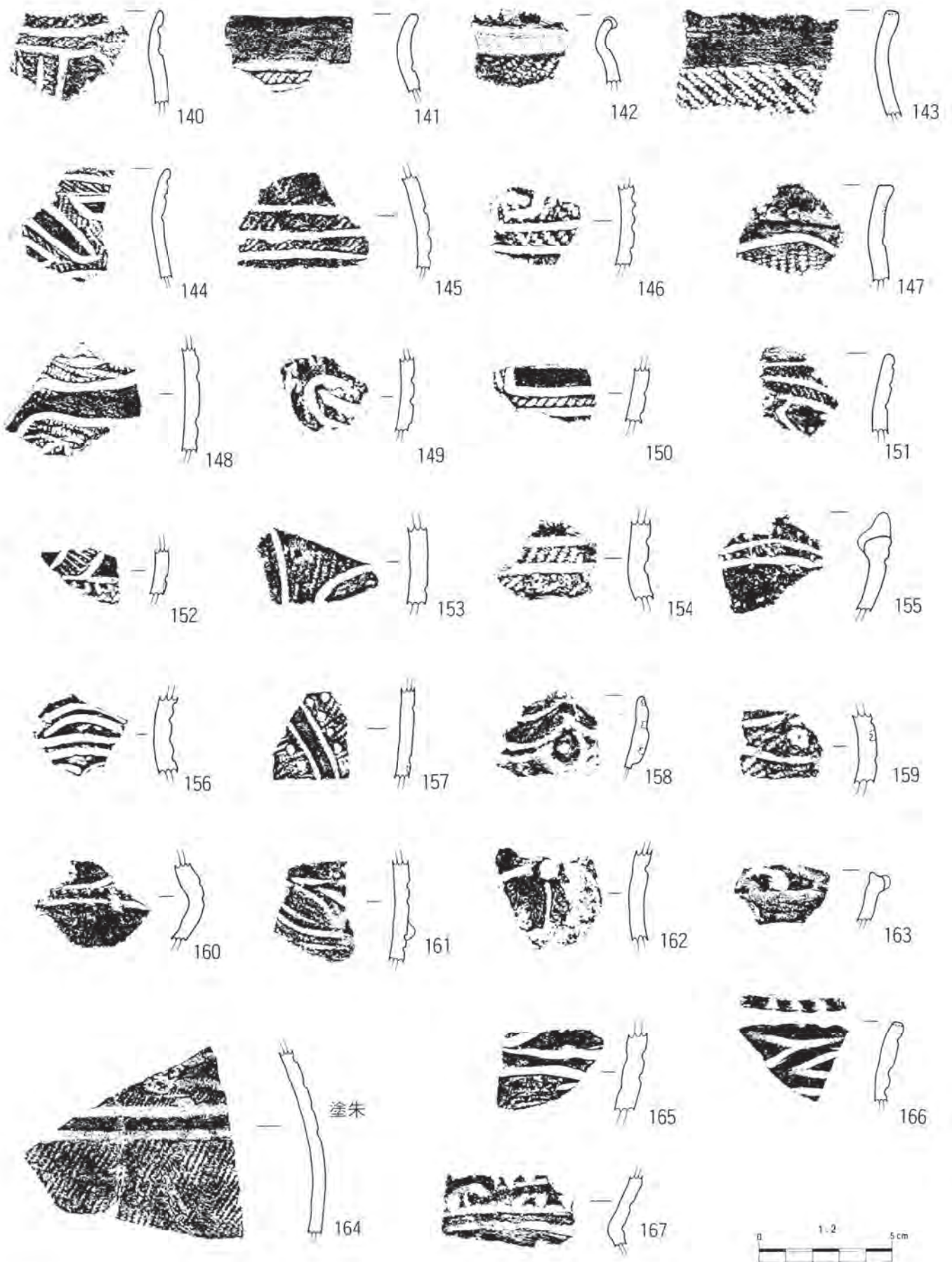
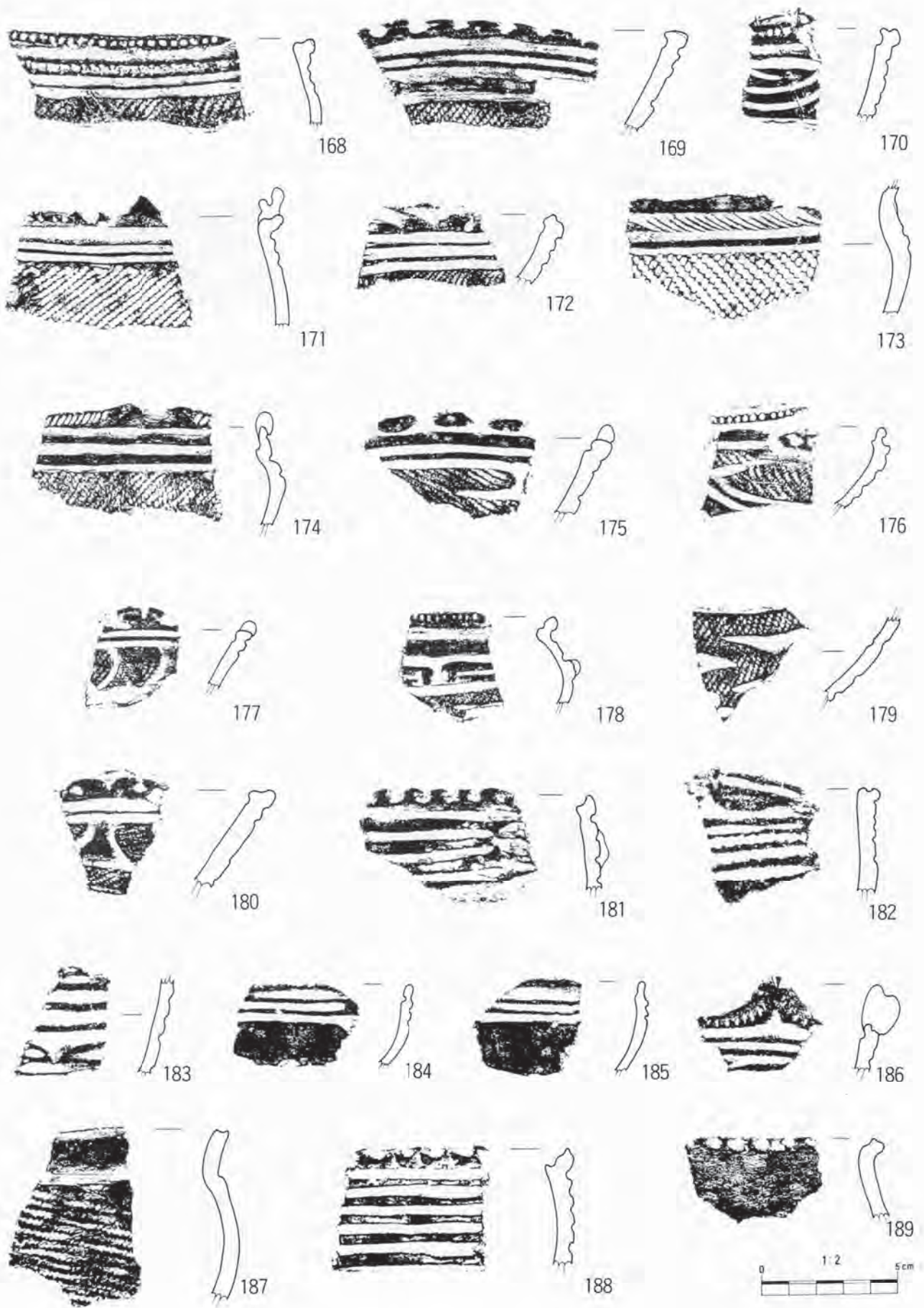


Fig. 16

小山田地区遺物(Koy-01~02)



小山田地区遺物(Koy-02)

Fig. 17

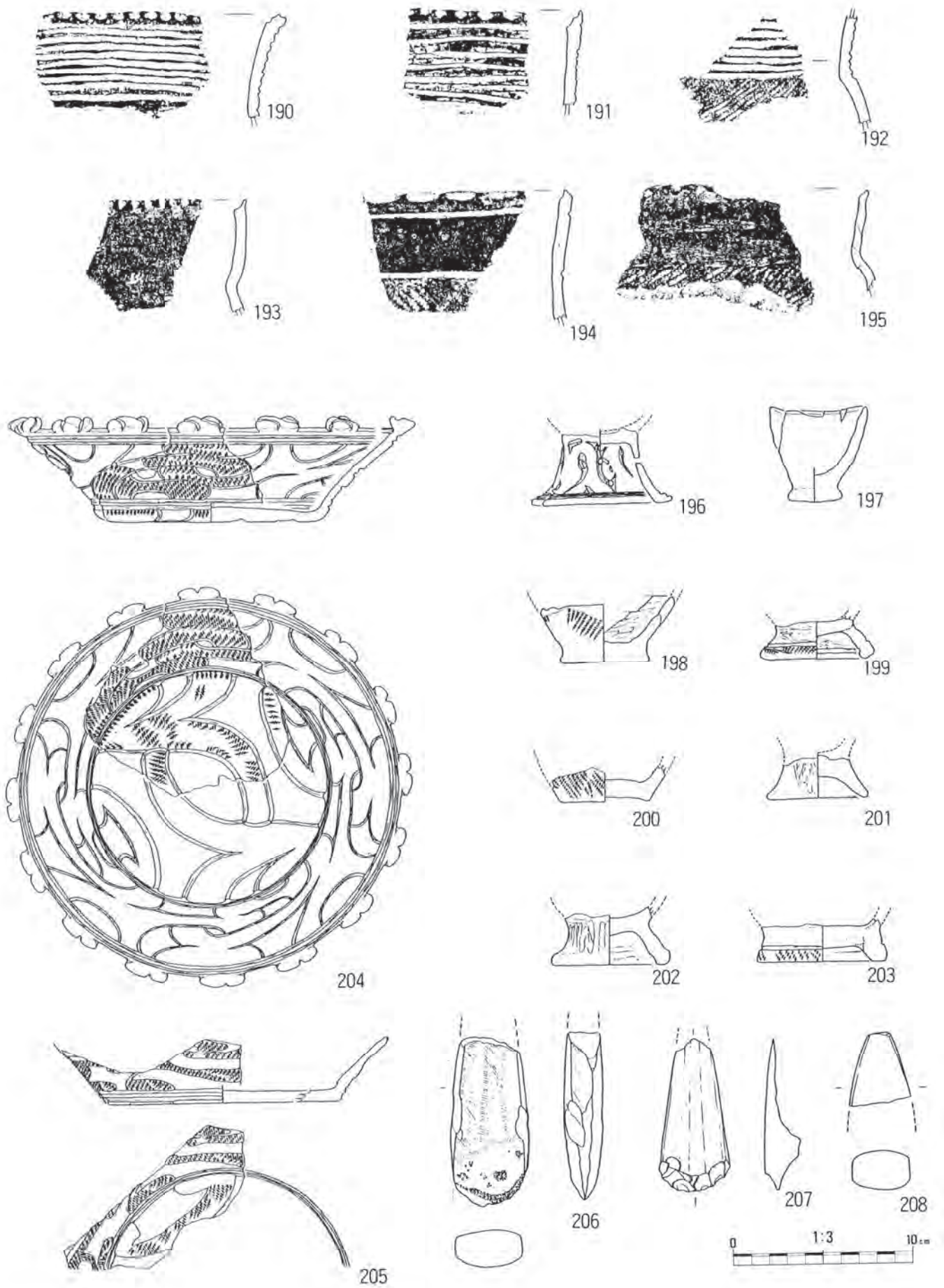
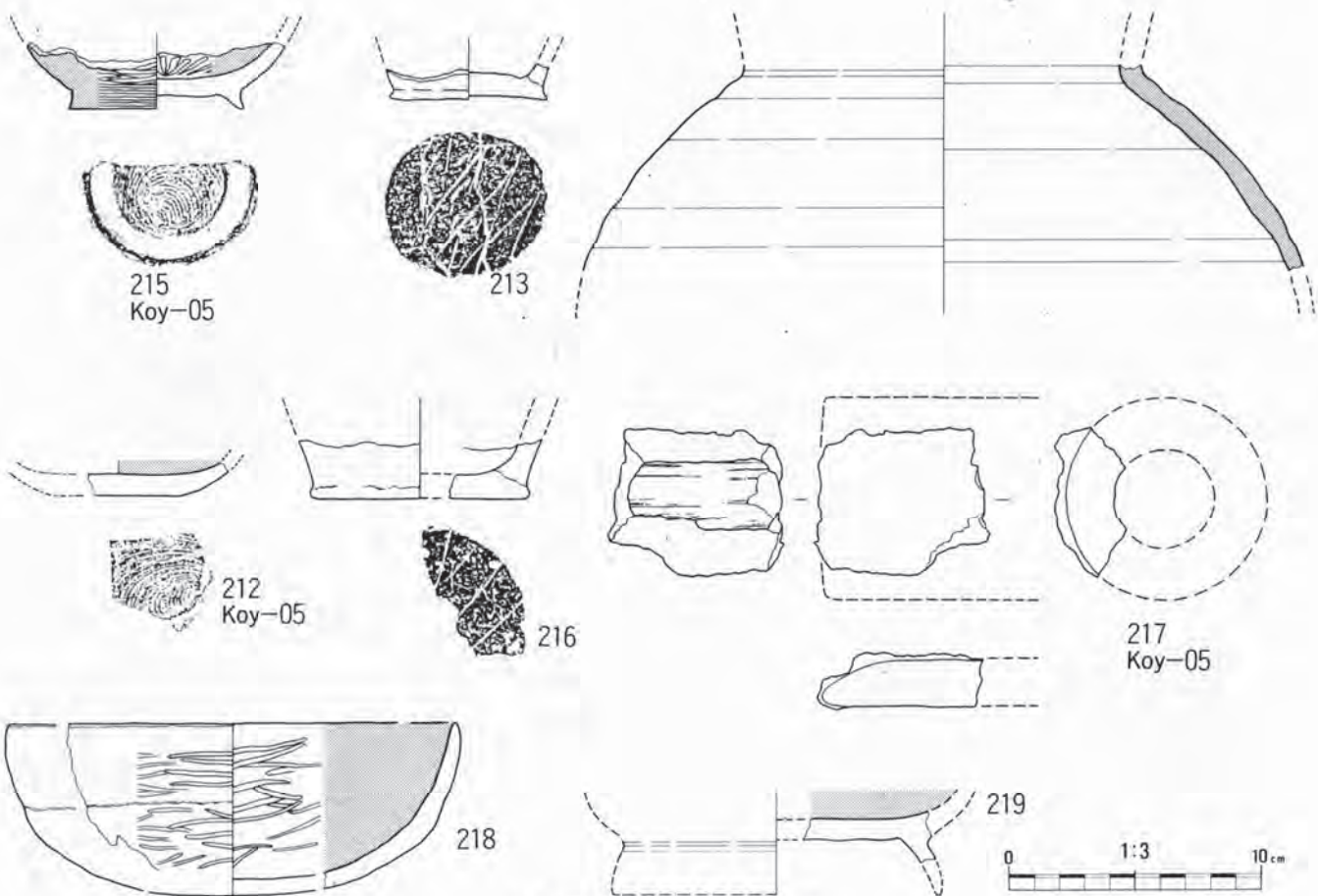
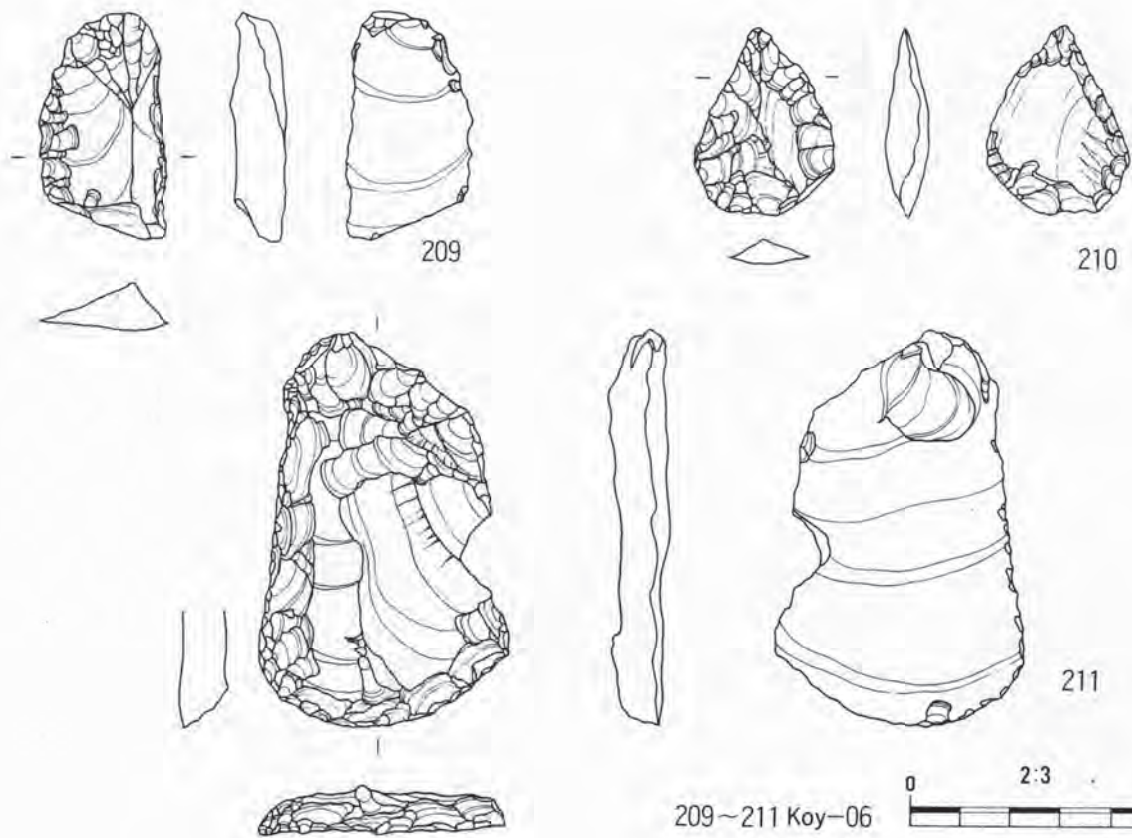


Fig. 18

小山田地区遺物



小山田地区遺物(Koy-05、06)

Fig. 19

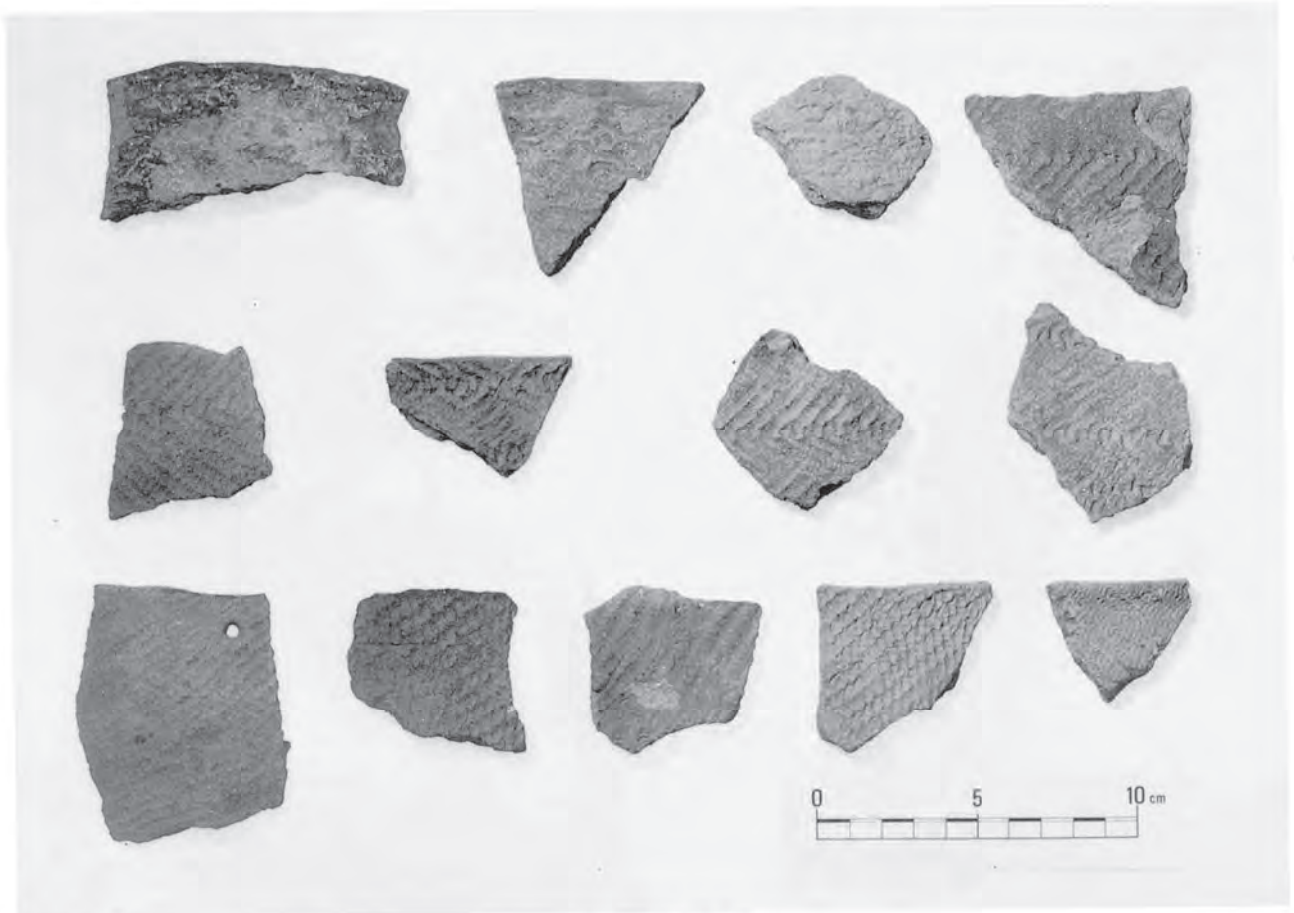


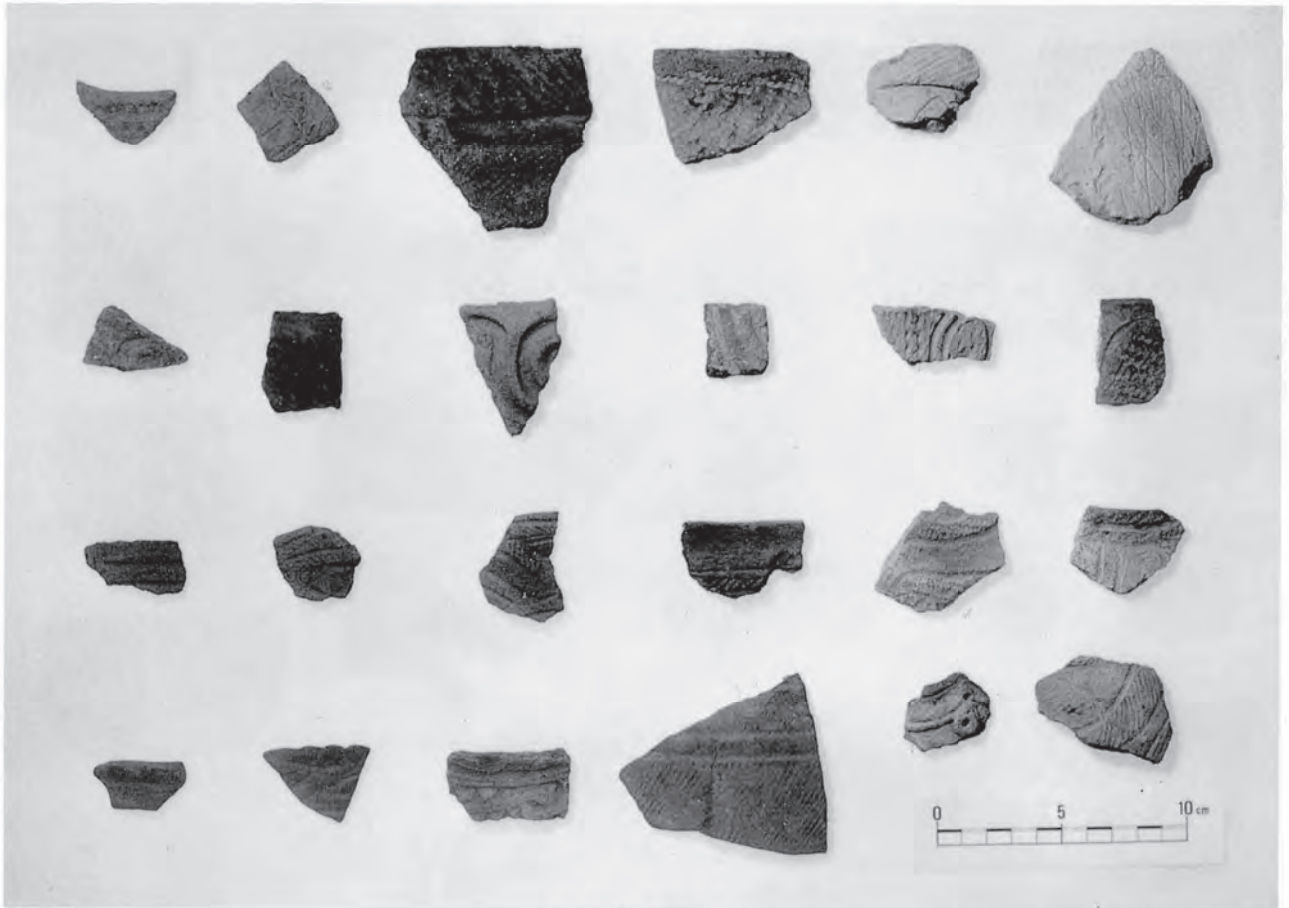
Photo. 47

小山田地区遺物



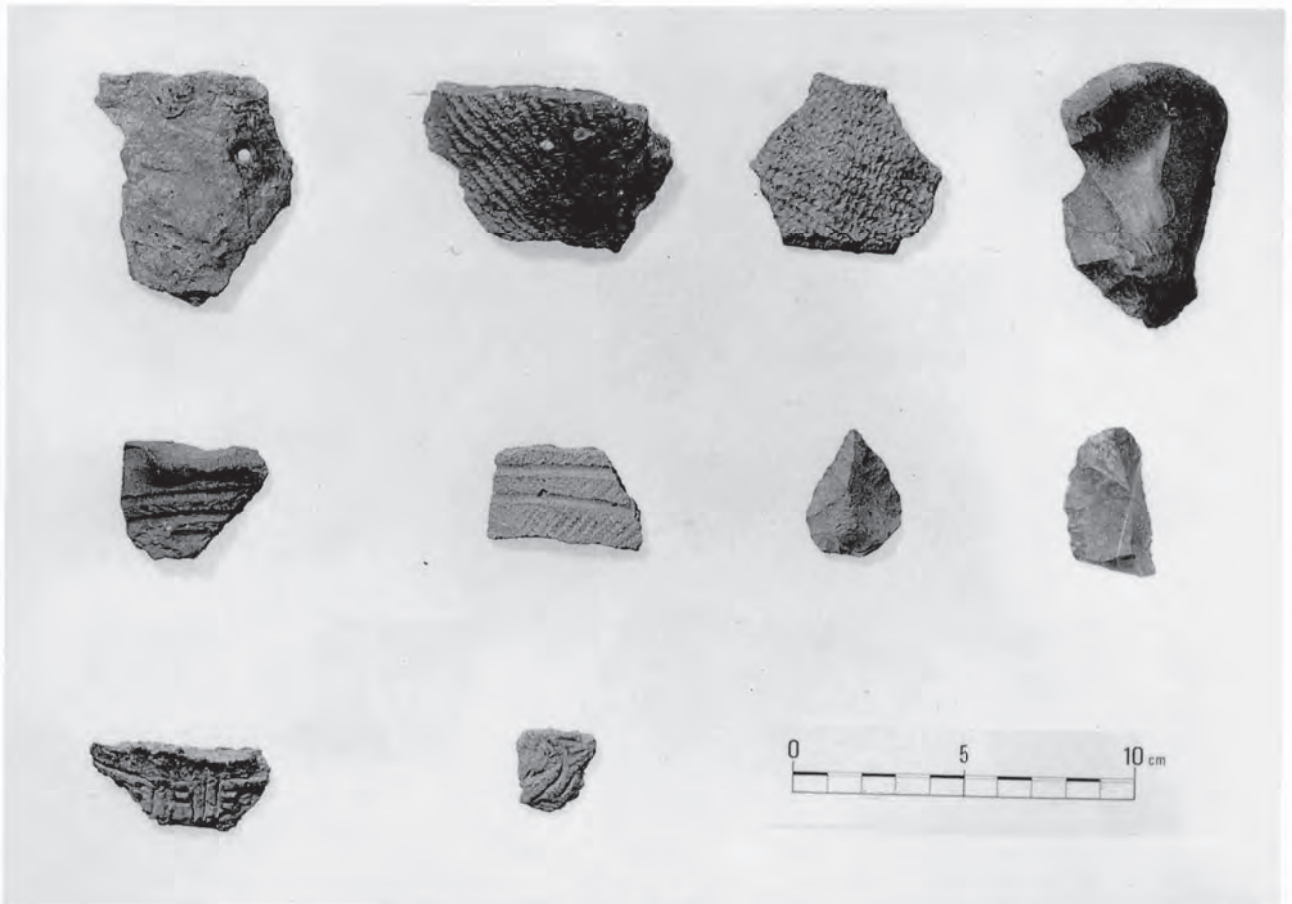
Photo. 48

小山田地区遺物



小山田地区遺物

Photo. 49



小山田地区遺物

Photo. 50



Photo.51

小山田地区遺物

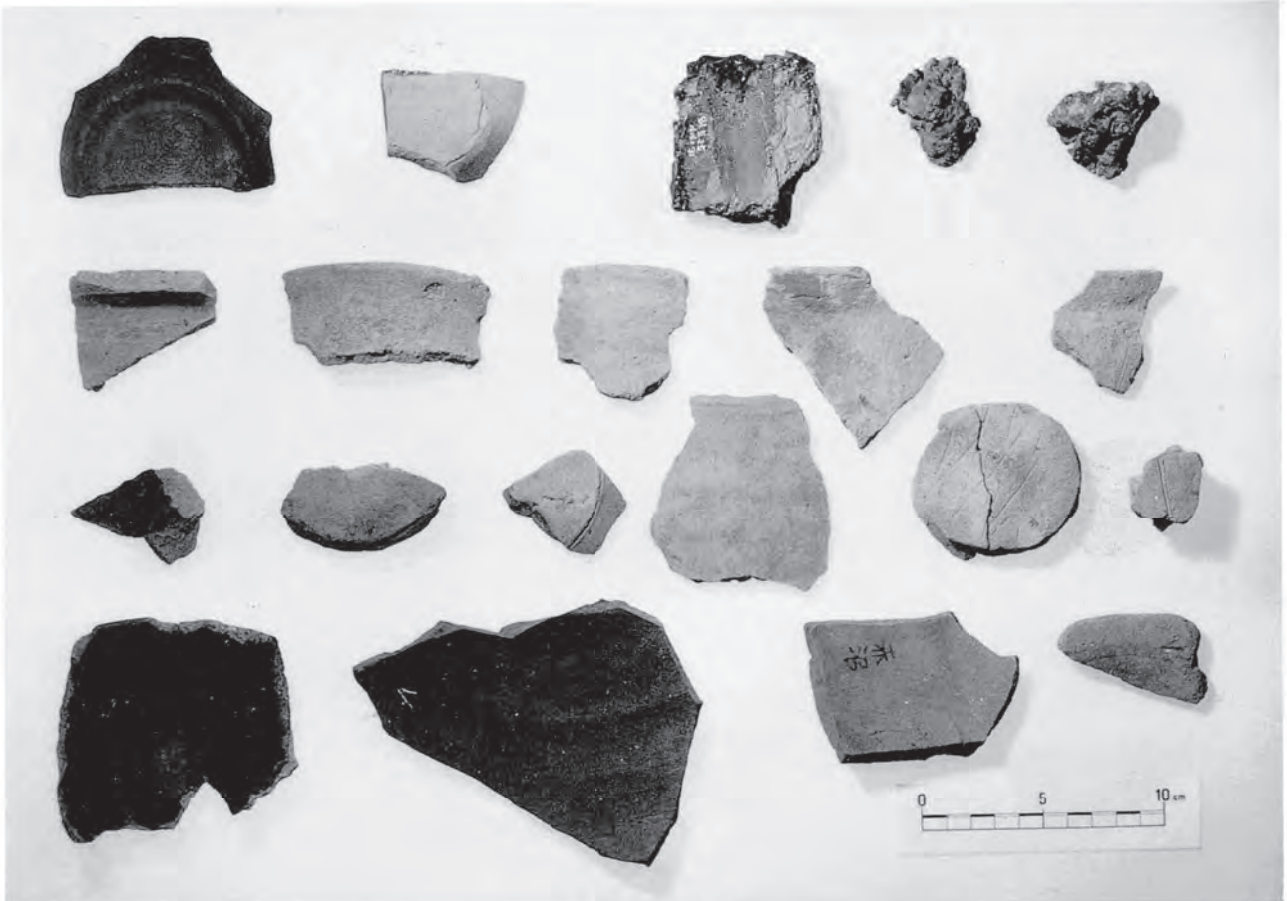


Photo.52

小山田地区遺物



小山田地区遺物(Koy-02)

Photo.53



1-a



1-b



1-c



2-a



2-b



3



4



小山田館南沢(南西より)

Photo. 55



小山田地区(東より)

Photo. 56

4. 八木沢地区

八木沢地区は、南北をそれぞれ金浜・高浜及び小山田・磯鷄の山陵にはさまれた川沿いの地区である。地形は川により開析された低地面と、山地とに二分される。川の中下流域ではほぼ山地に遺跡が見られるが、上流域では川の流域にも遺跡が立地する。八木沢地区では15の遺跡が確認された。また今回の調査では港湾埋立に関連する開発地域についても踏査し3遺跡の所在を確認している。(磯鷄地区So-09~11)

Yag-01 八木沢地区の北端に位置し、標高約80~100mの南東向き斜面に所在する。現在畑地と山林



Fig. 20

八木沢地区遺跡分布図



八木沢地区

Photo. 57

になっており、縄文時代の遺物と土師器の小片が見られた。

八木沢川の中流に川を隔てて南北に各々八木沢古館、八木沢新館の二つの館跡が築かれている。(Fig.22、Fig.23、Photo.63)

八木沢新館
(Yag-05)
Photo.64~68

八木沢新館は北東に伸びた尾根上に築かれており、尾根の最先端には現在八木沢神社が祀られている。尾根の基部を空堀りで区切り、先端に向って主郭・二の郭・空堀り・三の郭と配置されている。館の南北は急崖となっておりそれぞれ八木沢川と小さな沢により区切られている。

館の範囲は尾根沿いに約280m、八木沢神社まで含めると約330m、幅約100mの範囲である。主郭の南西端にPhoto.68の石の祠が祀られている。また空堀りを隔てて南西の尾根上にも祠が祀られている。(Photo.67)

八木沢古館
(Yag-06)
Photo.69

八木沢古館は八木沢から高浜に抜ける湯舟ヶ沢沿いの山道の北東の尾根上に築かれており、新館と川をはさんでほぼ真正面の位置にある。(Photo.63)

尾根基部を空堀りで区切り 標高約96mの位置に主郭を配し、南北に延びる尾根沿いと 尾根の



Fig. 21

磯鶏館山

先端部に郭を築いている。尾根からはずれると沢に向かってかなり急な斜面となっており要害度は高い。(Fig.23)

尾根先端の郭から基部の空堀まで長さ約250m、主郭の周辺で幅約180mの規模である。

また湯舟ヶ沢からはFig.26、248～252の遺物が出土している。

参考文献 田村忠博著「宮古の中世史・古城物語」1983

Yag-14

八木沢川上流に位置し、小さな沢をとりこんだ山麓部に位置する。かつて中嶋隆氏により多数の遺物が採集され現在も同氏のもとで保管されている。Fig.24、25に示す遺物がそれらであるが、ほぼ縄文時代前期初頭の遺物が主体を占めている。

磯鷄館山 (So-09)

港湾埋立てに係る開発が予定されているため、今回の調査地域に含め現地踏査を行った。県教育委員会文化課文化財主査との現地踏査及びその後の踏査により確認された結果をFig.21に示す。当地区は古文献や現在までの調査で館跡であるとの記録は無かったが、地元の通称として「館山」と呼ばれていることや、祠が祀られていることなどから踏査するに至った。当地区は八木沢の入口に位置し、東方に宮古湾、南西に八木沢の奥まで見渡すことができる。最も高い標高約50mのところこゝに小さな郭が二ヶ所築かれておりこれをとりかこんで腰郭が付されている。北東の張り出しには段状に築かれた郭が見られた。「八木沢地区の館跡と関連を有する、物見ものみ的な出丸であったと思われる」(文化課現地踏査所見より)

なお八木沢地区の遺物の借用に快諾をいただいた中嶋隆氏に記して謝意を表する。



磯鷄館山(Sokei-Tateyama)

Photo. 58



Photo.59

磯鷄館山と八木沢地区(北東より)



Photo.60

磯鷄館山 So-09 (南西より)



磯鷄館山 So-09 (西より)

Photo.61



磯鷄館山 So-09 (南より)

Photo.62

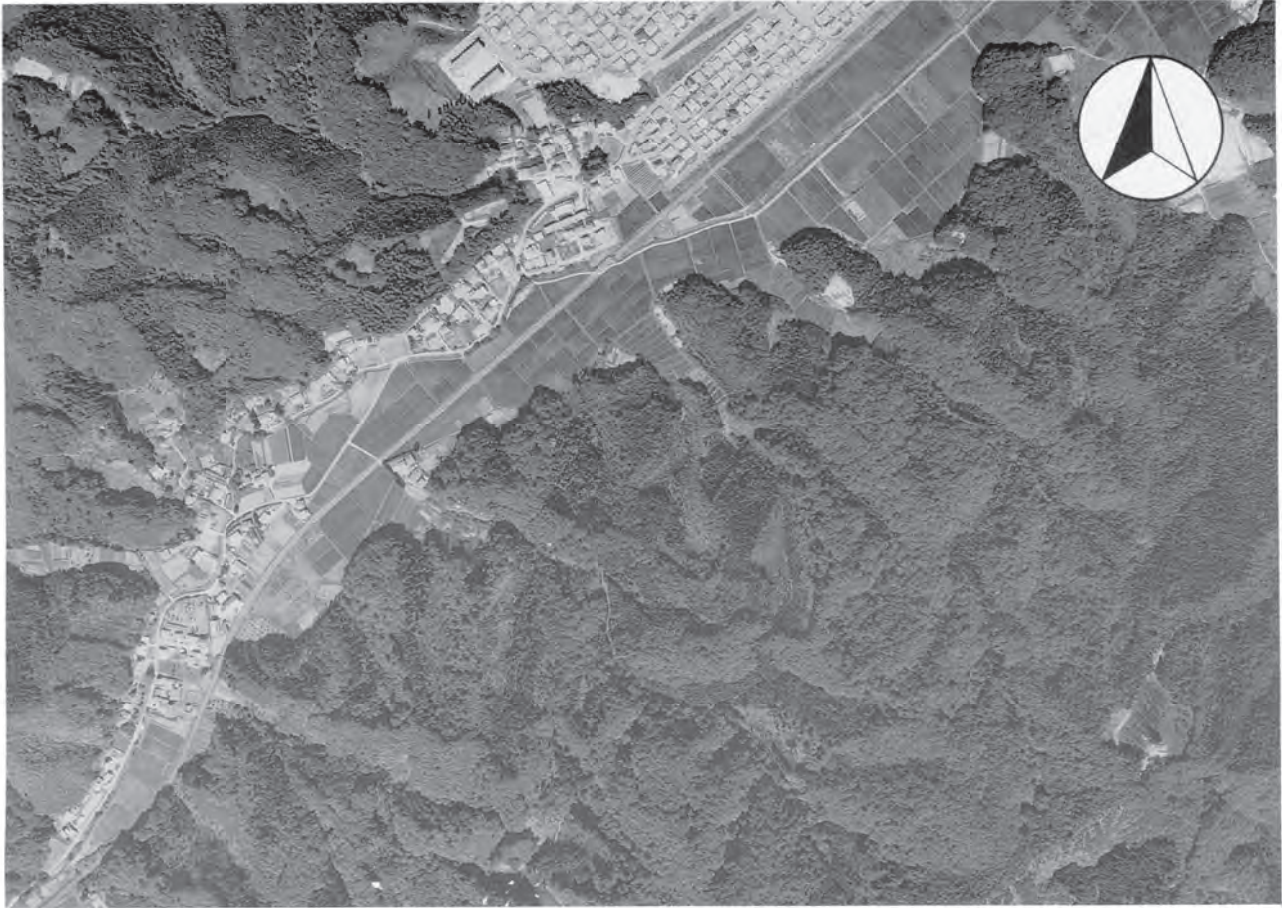


Photo.63

八木沢新館・古館



Fig.22

八木沢新館要図



八木沢新館(南より)

Photo.64



八木沢新館空堀(南東より)

Photo.65



Photo.66

八木沢新館三の郭(南西より)



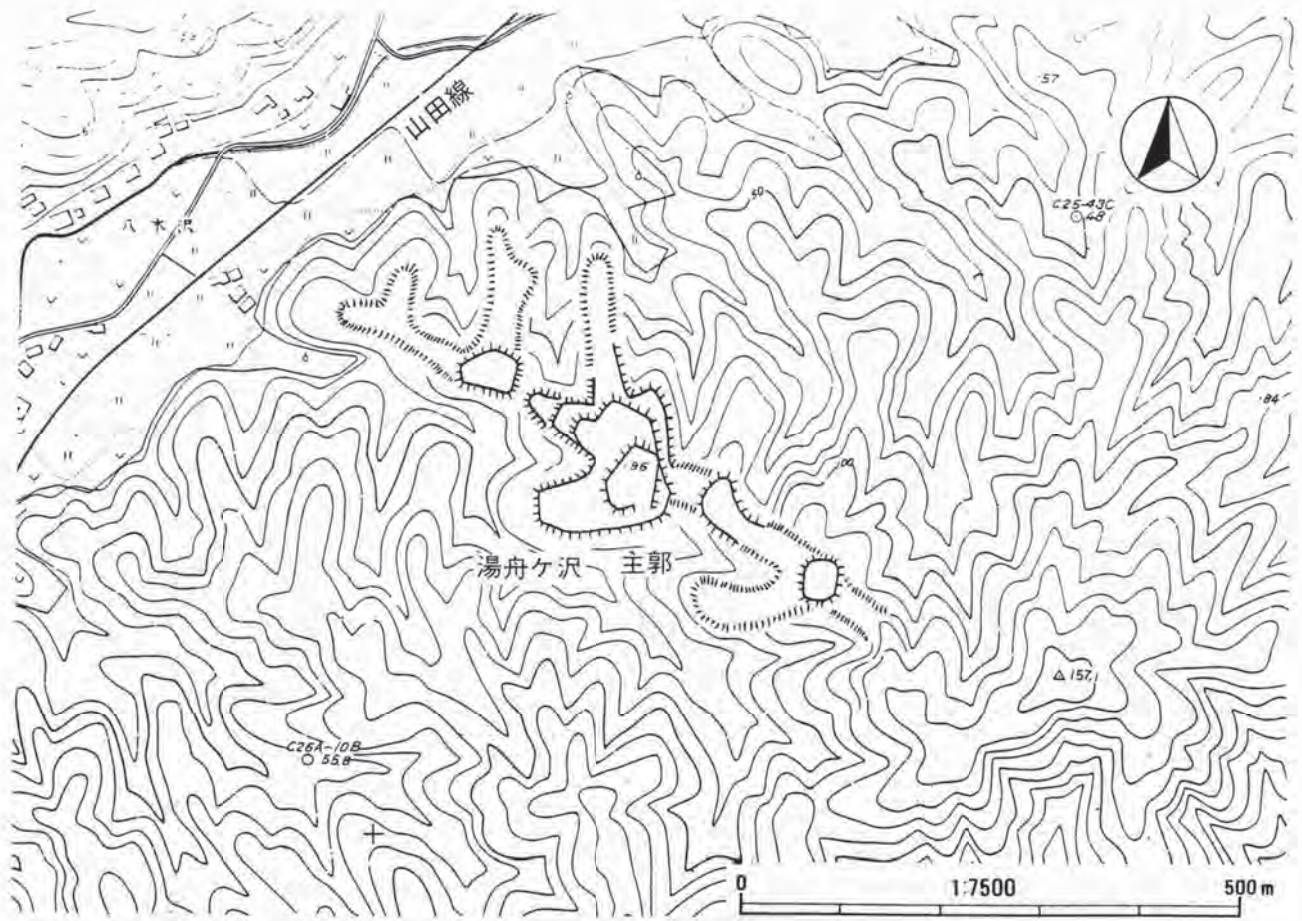
Photo.67

新館南西の祠



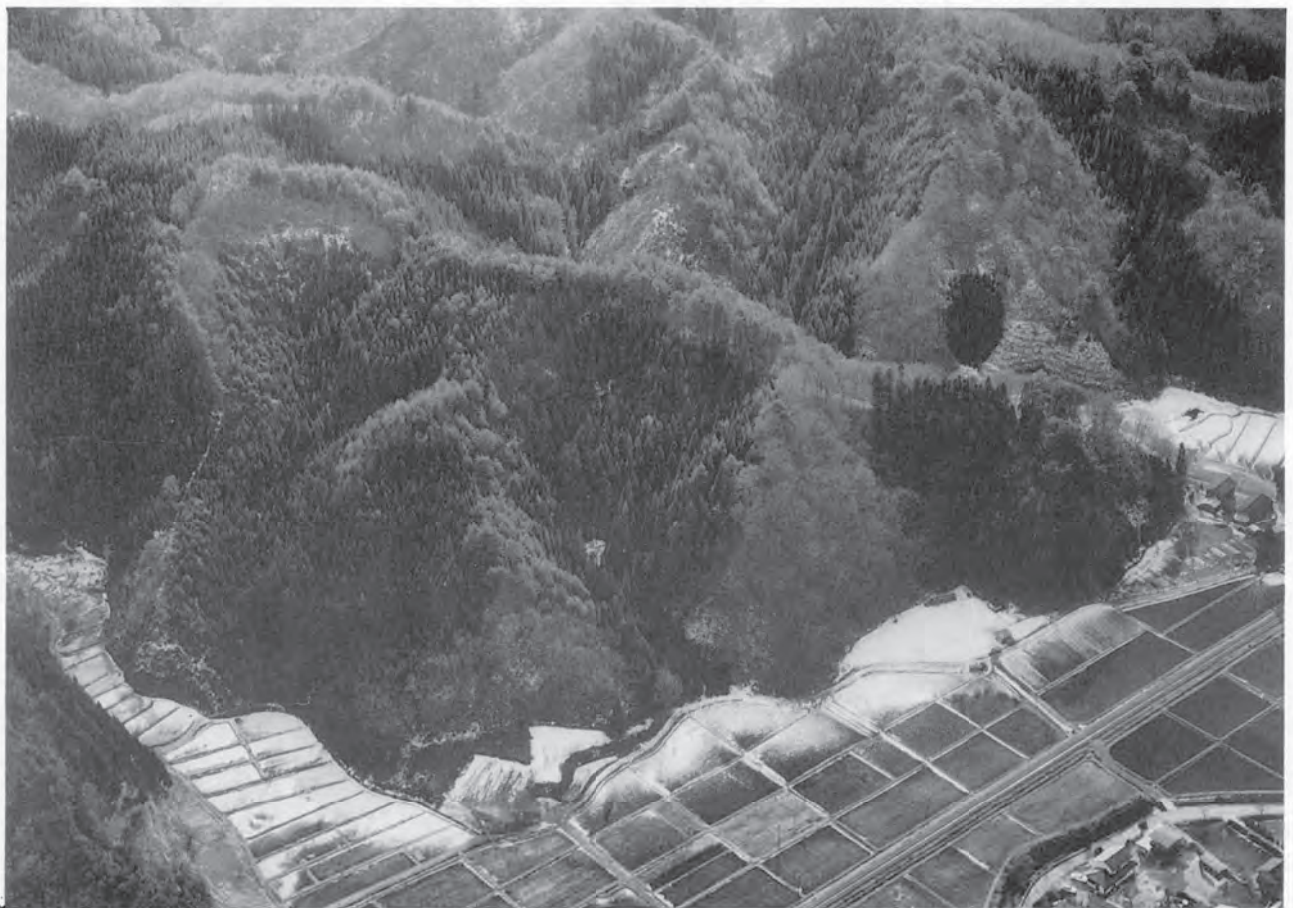
Photo.68

新館主郭の祠



八木沢古館要図

Fig. 23



八木沢古館(北より)

Photo. 69

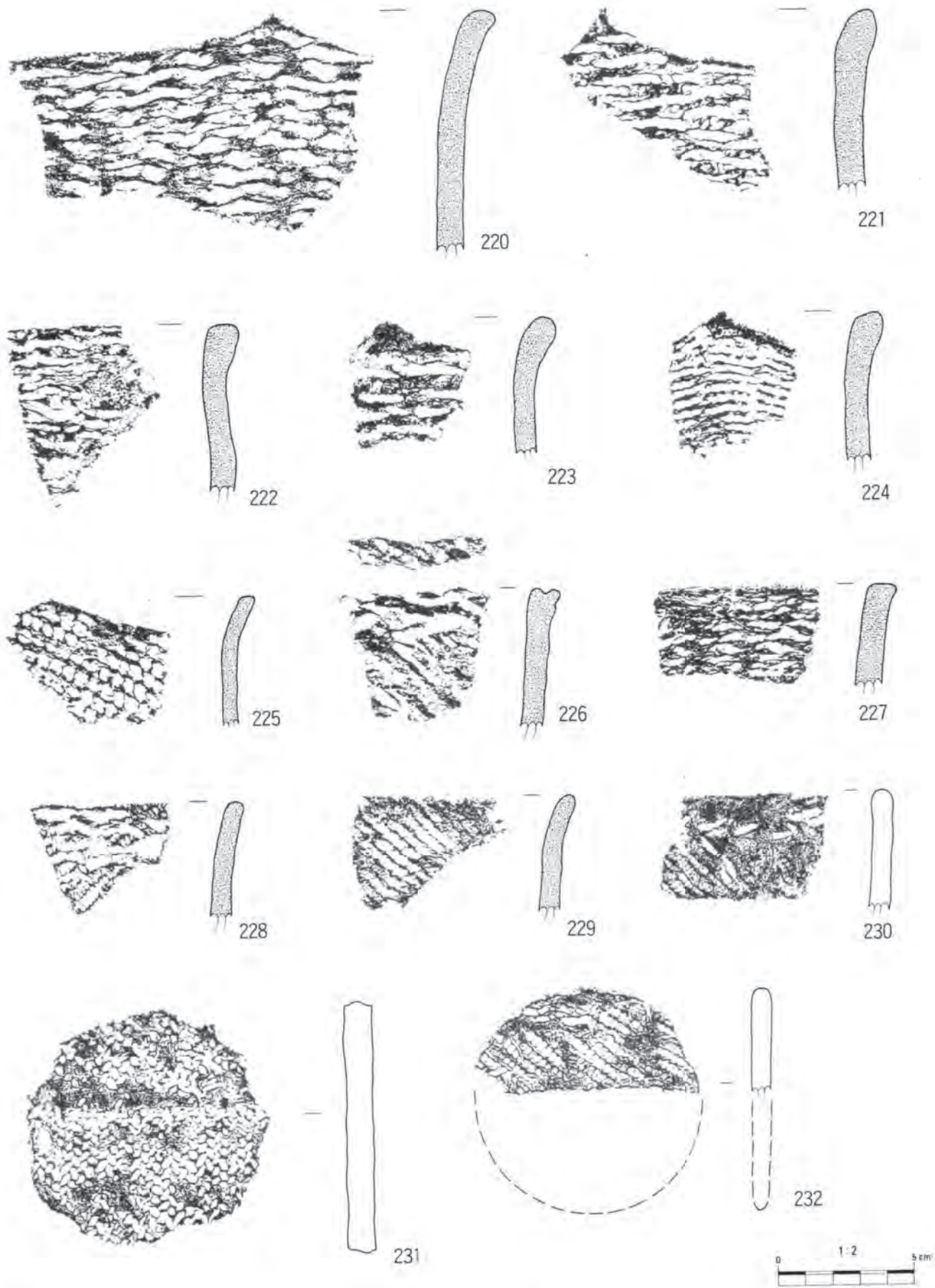
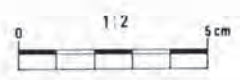
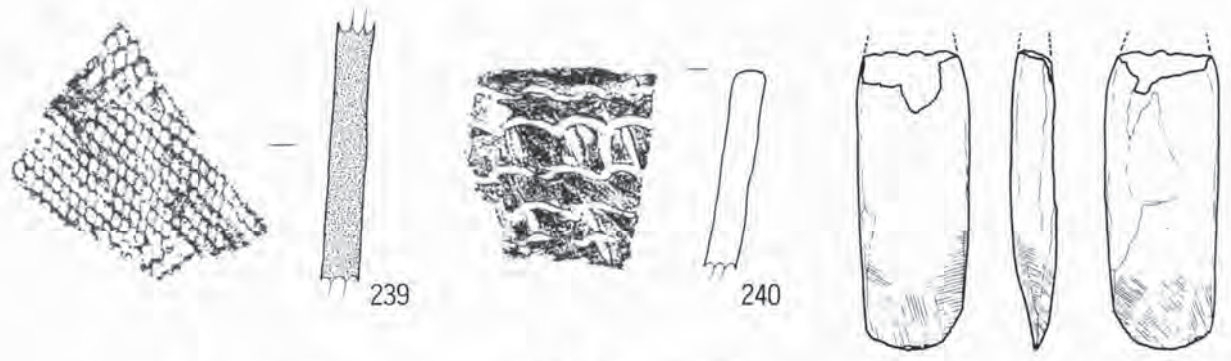
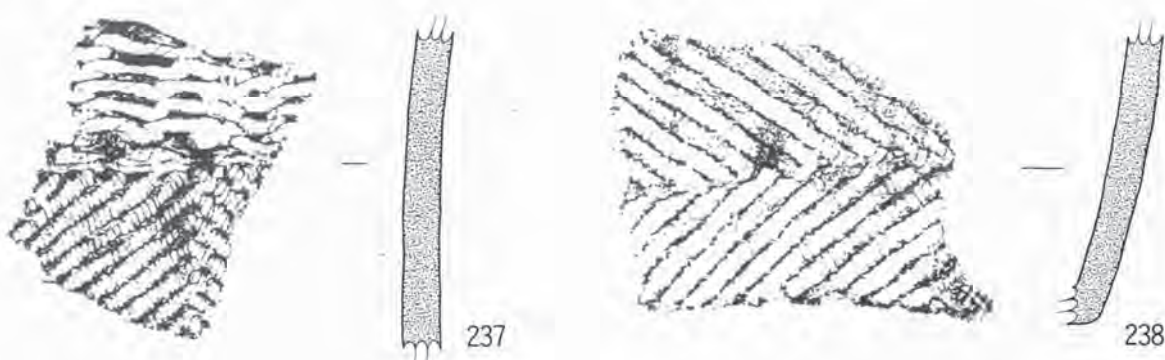
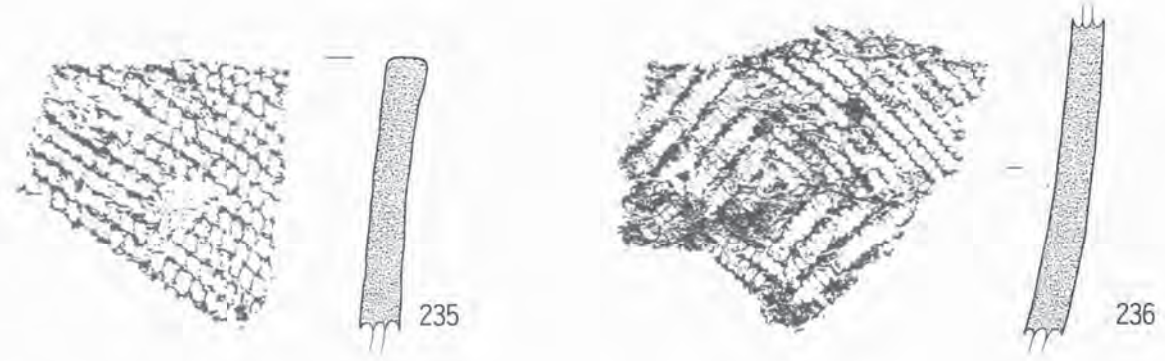


Fig. 24

八木沢地区遺物(Yag-14)



八木沢地区遺物(Yog-14)

Fig. 25



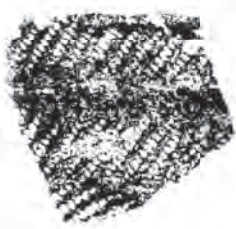
244(So-09)



245



246



247



248



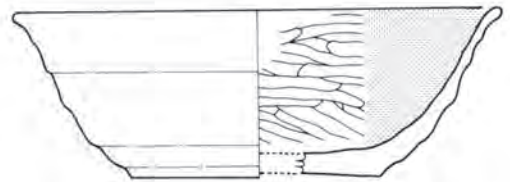
249



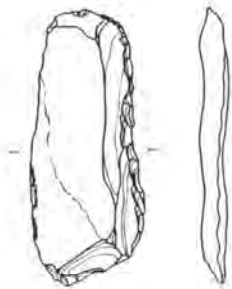
250



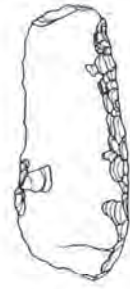
251



252



253



254

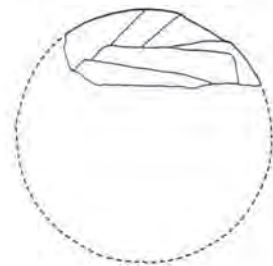
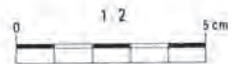


Fig. 26

245~247, 253, 254 Yag-01 248~252 Yag-06

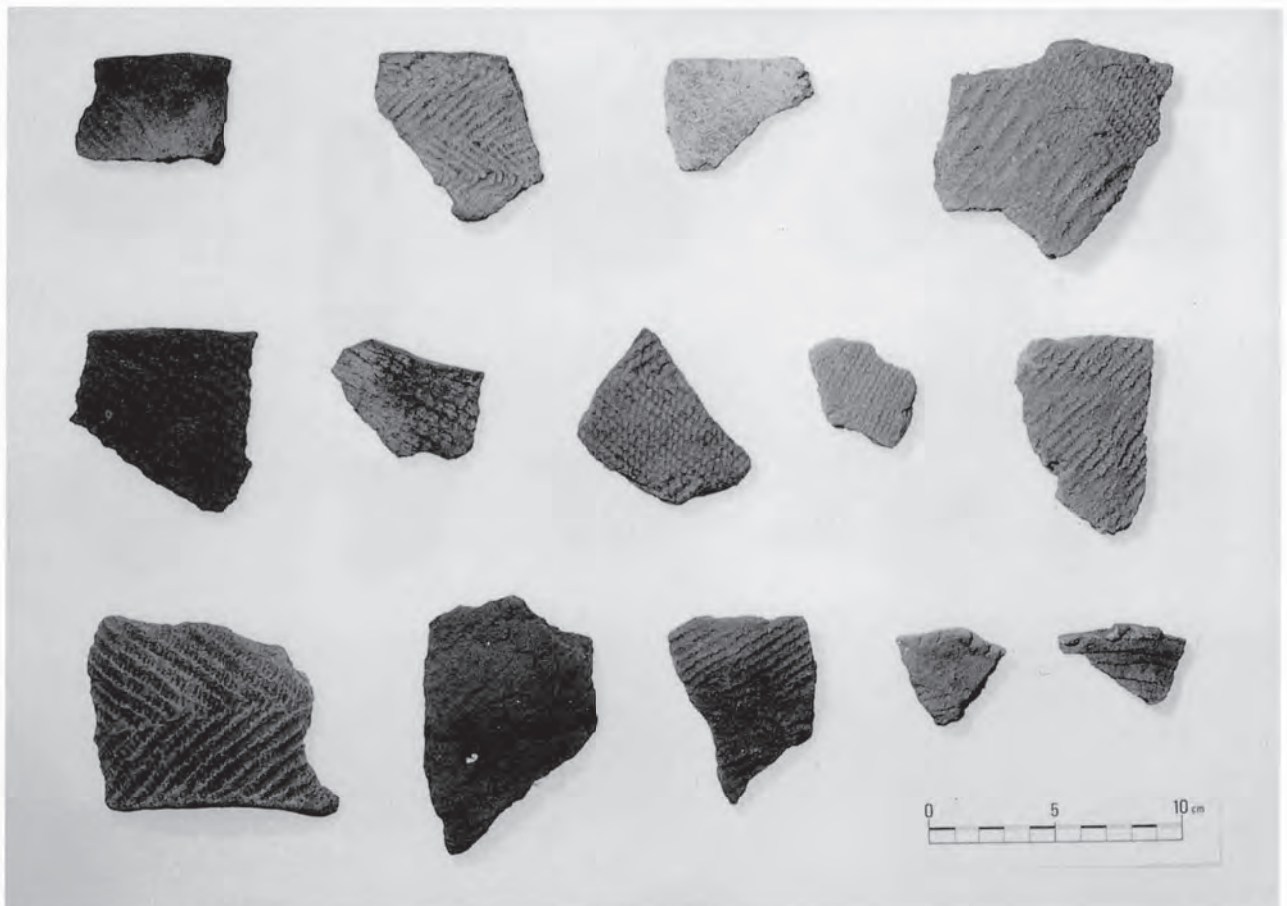
八木沢地区遺物





八木沢地区遺物

Photo. 70



八木沢地区遺物

Photo. 71

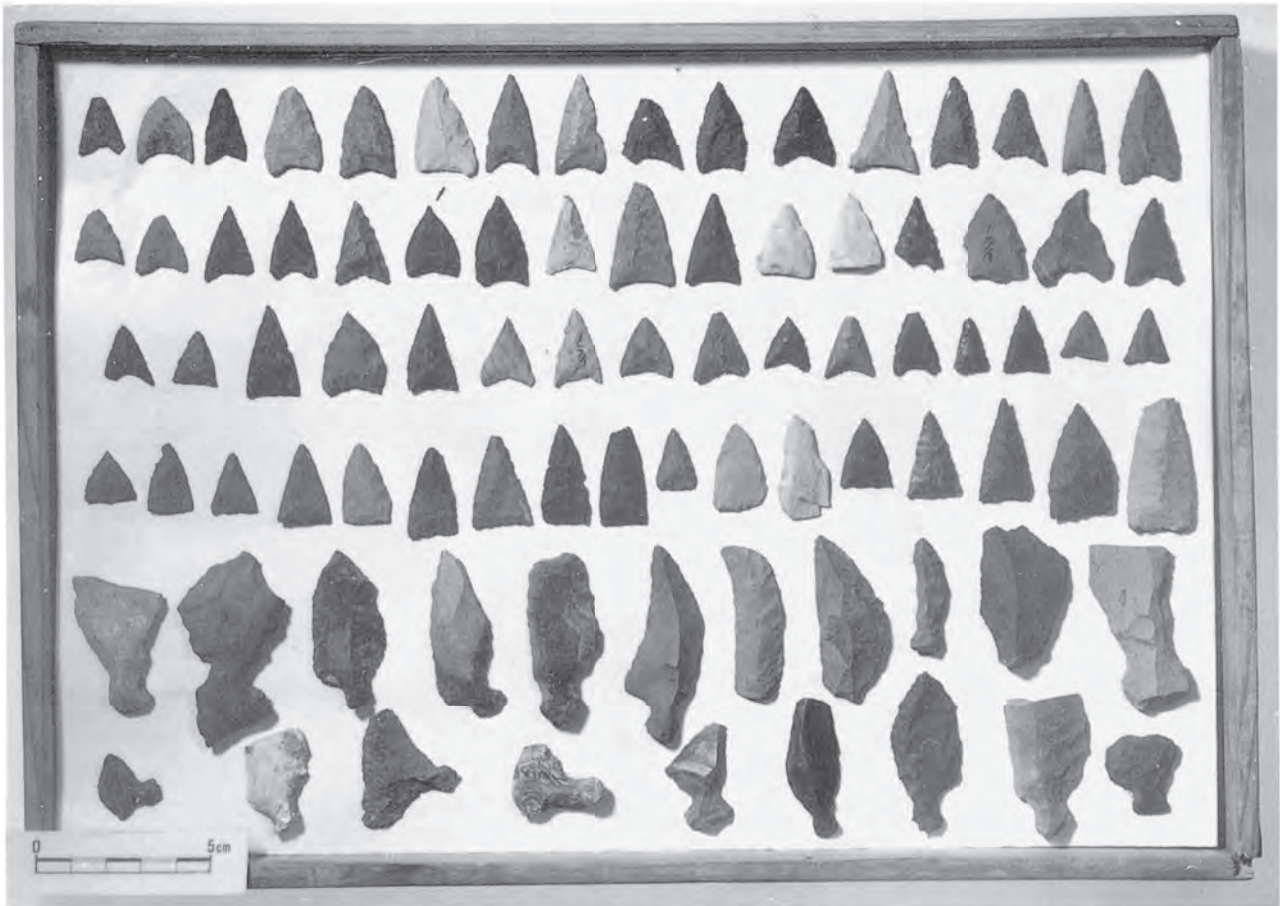


Photo. 72

八木沢地区遺物(Yag-14)



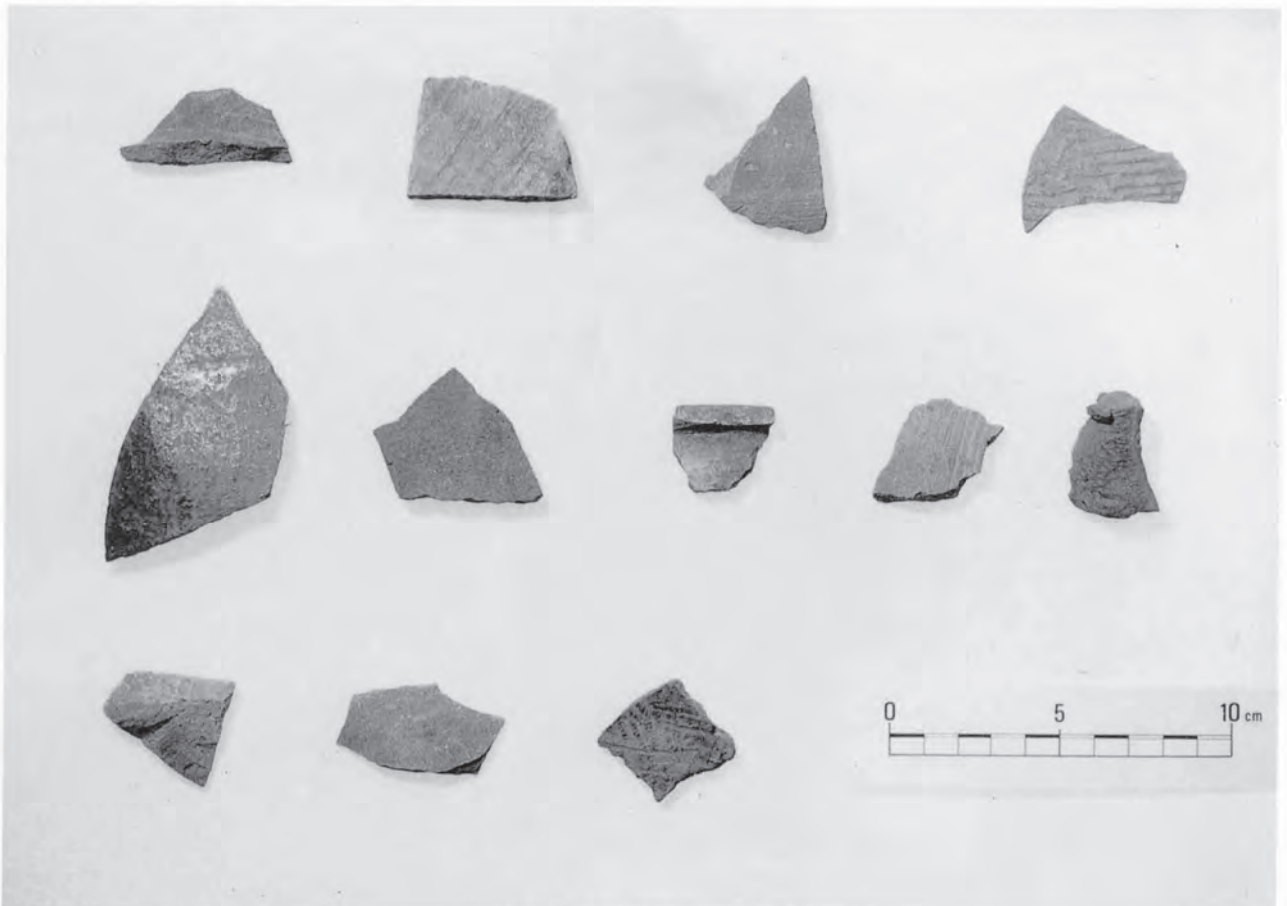
Photo. 73

八木沢地区遺物



八木沢地区遺物(Yag-06)

Photo. 74



八木沢地区遺物(Yag-05)

Photo. 75

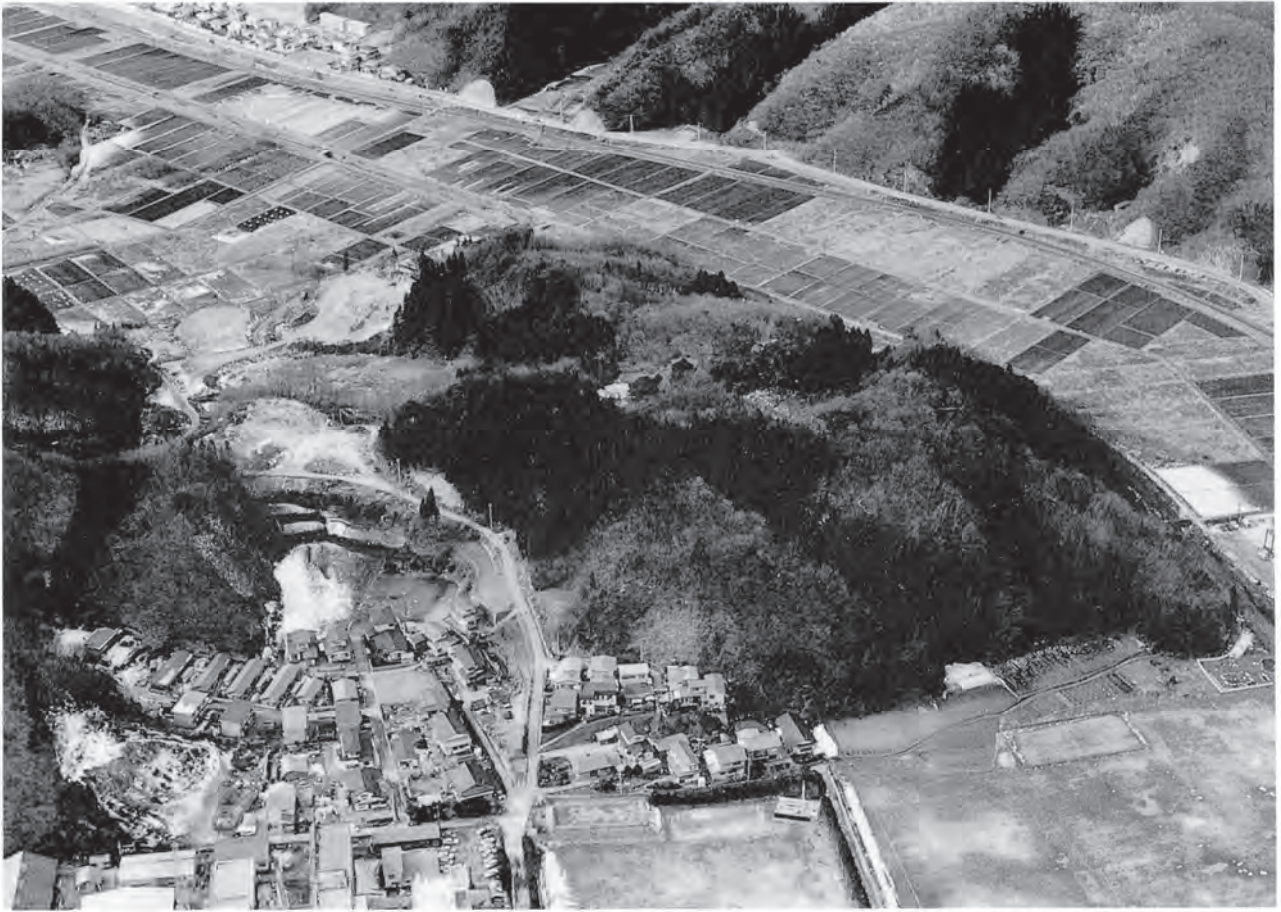


Photo. 76

So-09、So-10（東より）



Photo. 77

So-10（西より）



So-09 (南より)

Photo. 78



So-11

Photo. 79



Photo. 80

Yag-01 (西より)



Photo. 81

Yag-01 (北より)



Yag-11 (東より)

Photo.82



Yag-11 (北より)

Photo.83

5. 高浜地区 (Takahama)

高浜地区は宮古湾の西岸地域に位置し、遺跡は山間部から流れ出る沢をとりこんだ山麓部の南東向き緩斜面に立地する。Ta-02, 04遺跡では縄文時代後期の遺物が採集されている。またTa-05からは縄文時代早期・前期・中期の遺物が見られ特に中期中葉の遺物が主体を占める。

Ta-06からも多量の遺物が採集されておりほとんどが縄文時代中期中葉のものである。Ta-05, 06遺跡共に国道45号線の開削、学校建設、宅地造成等によりかなりの部分が失われているが現存部分には濃密に遺物が見られる。(報告にあたり中嶋隆氏所蔵の遺物を借用した。)



Fig. 27

高浜地区遺跡分布図



高浜地区

Photo.84

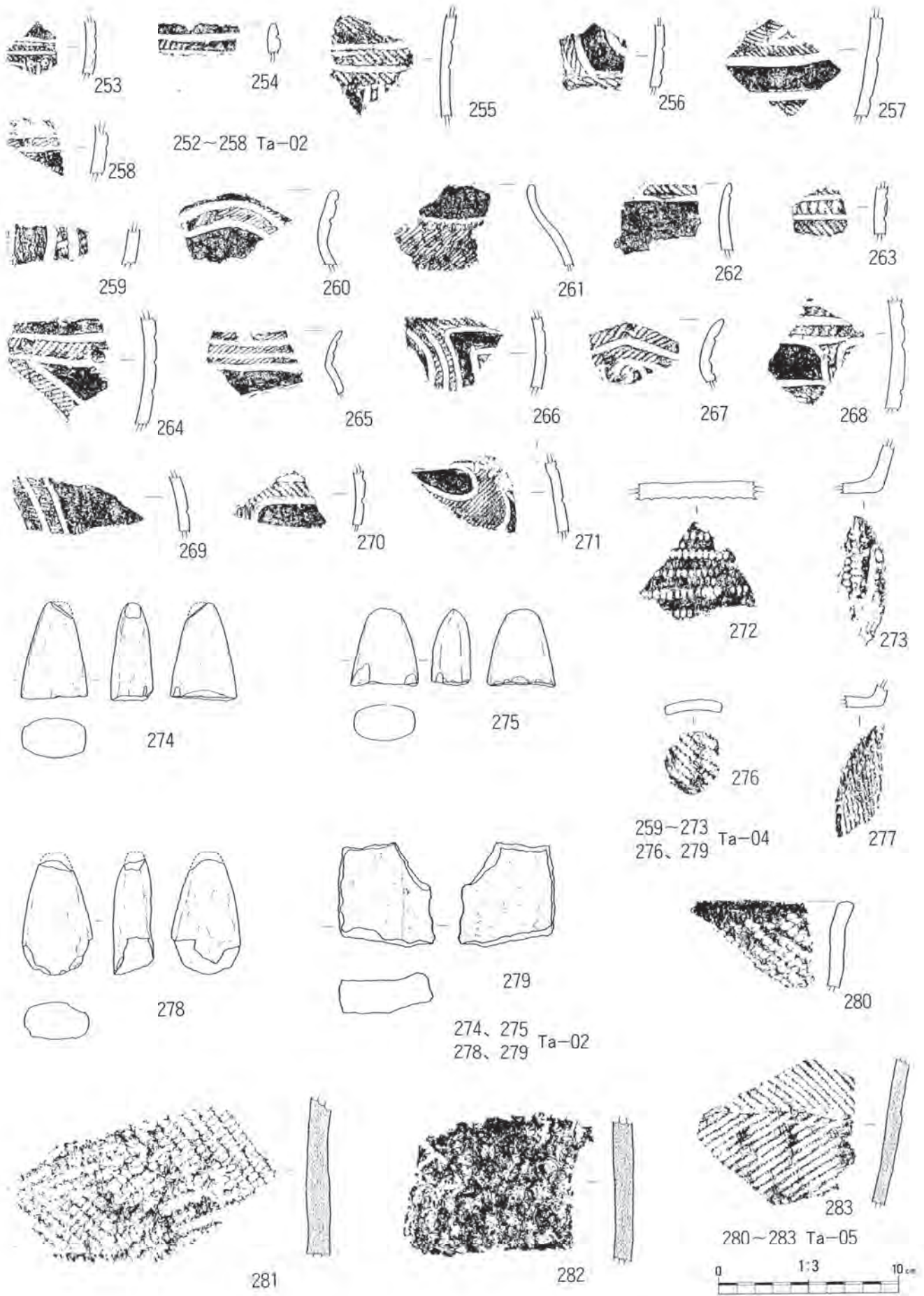


Fig. 28

高浜地区遺物



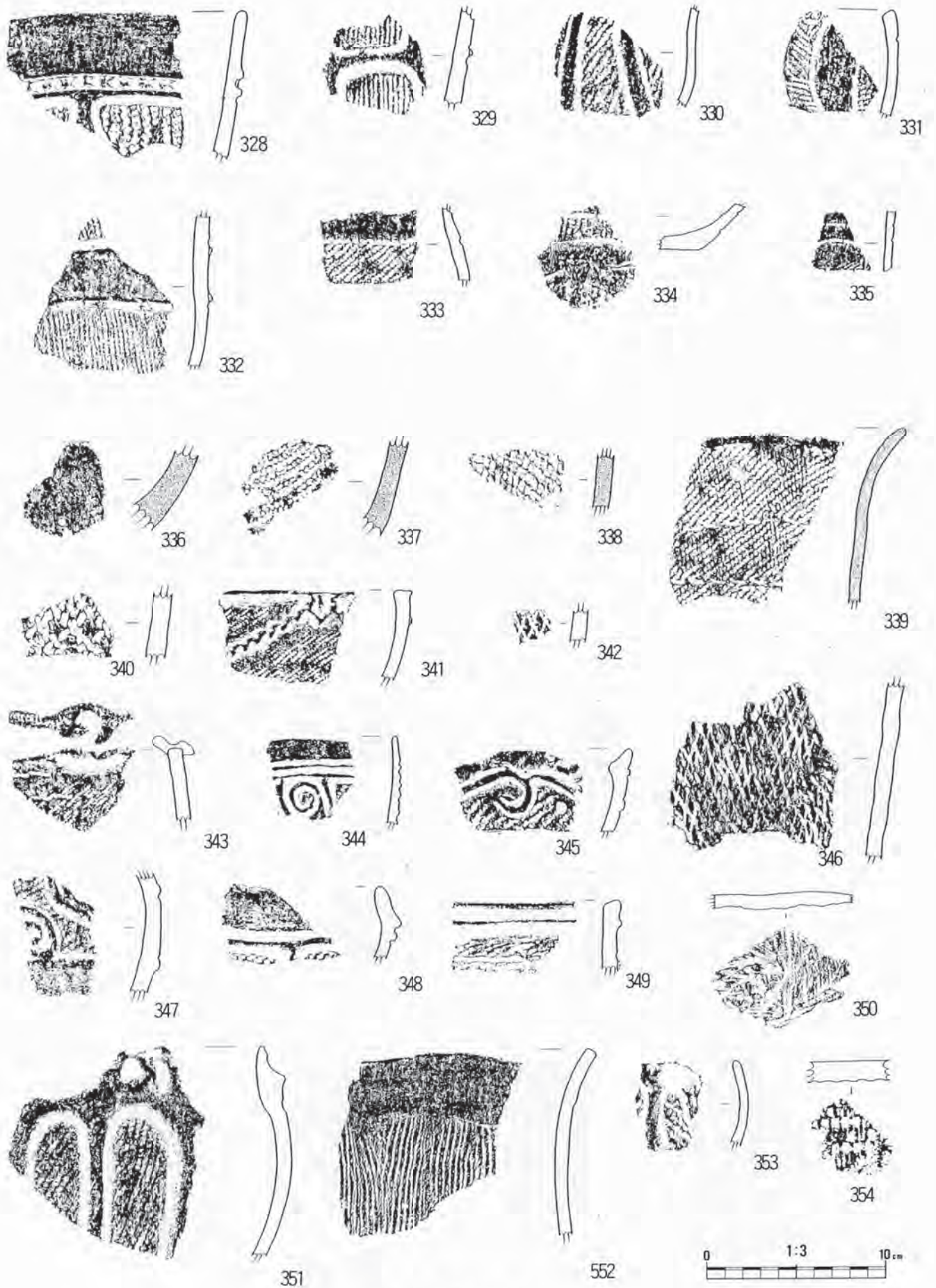
高浜地区遺物(Ta-06)

Fig. 29



Fig. 30

高浜地区遺物



高浜地区遺物(Ta-06)

Fig. 31

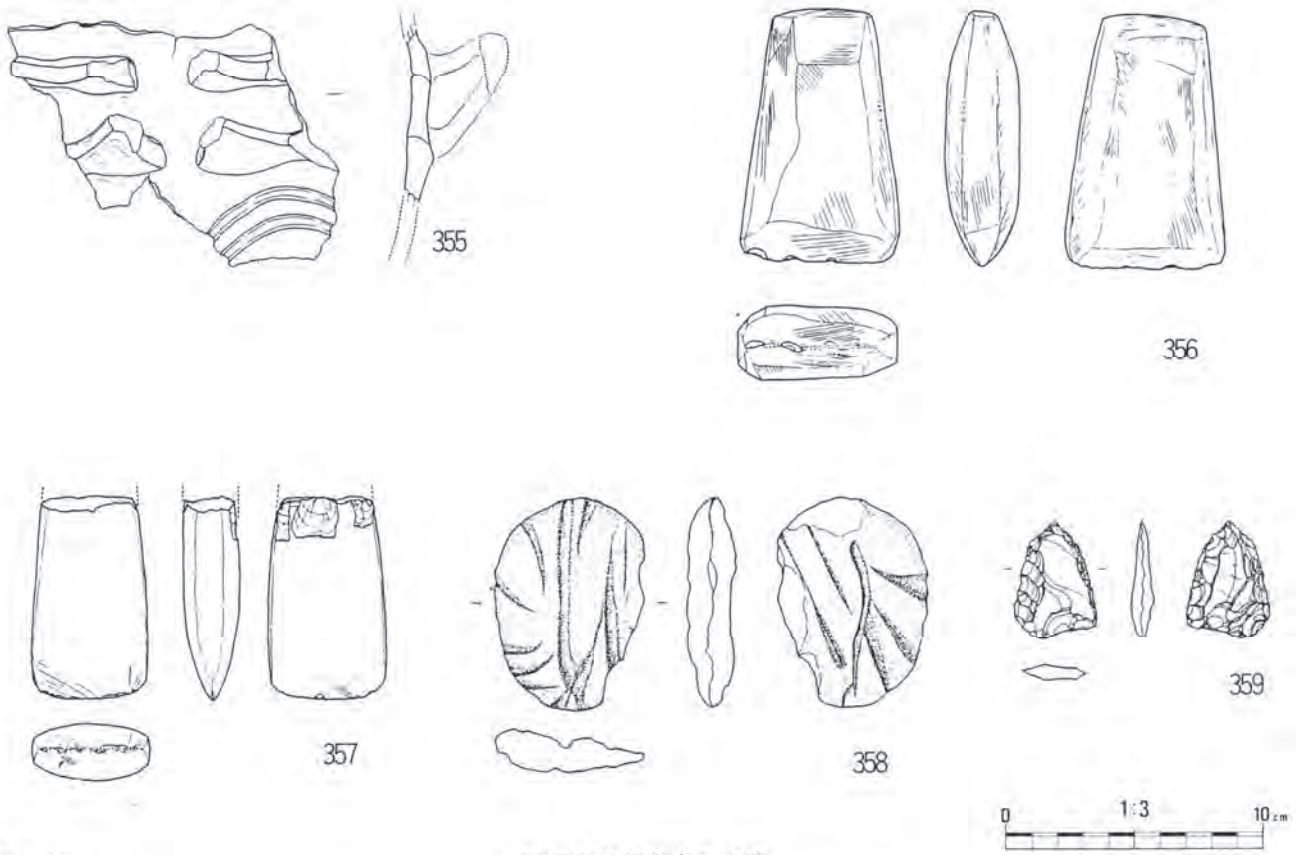


Fig. 32

高浜地区遺物(Ta-06)

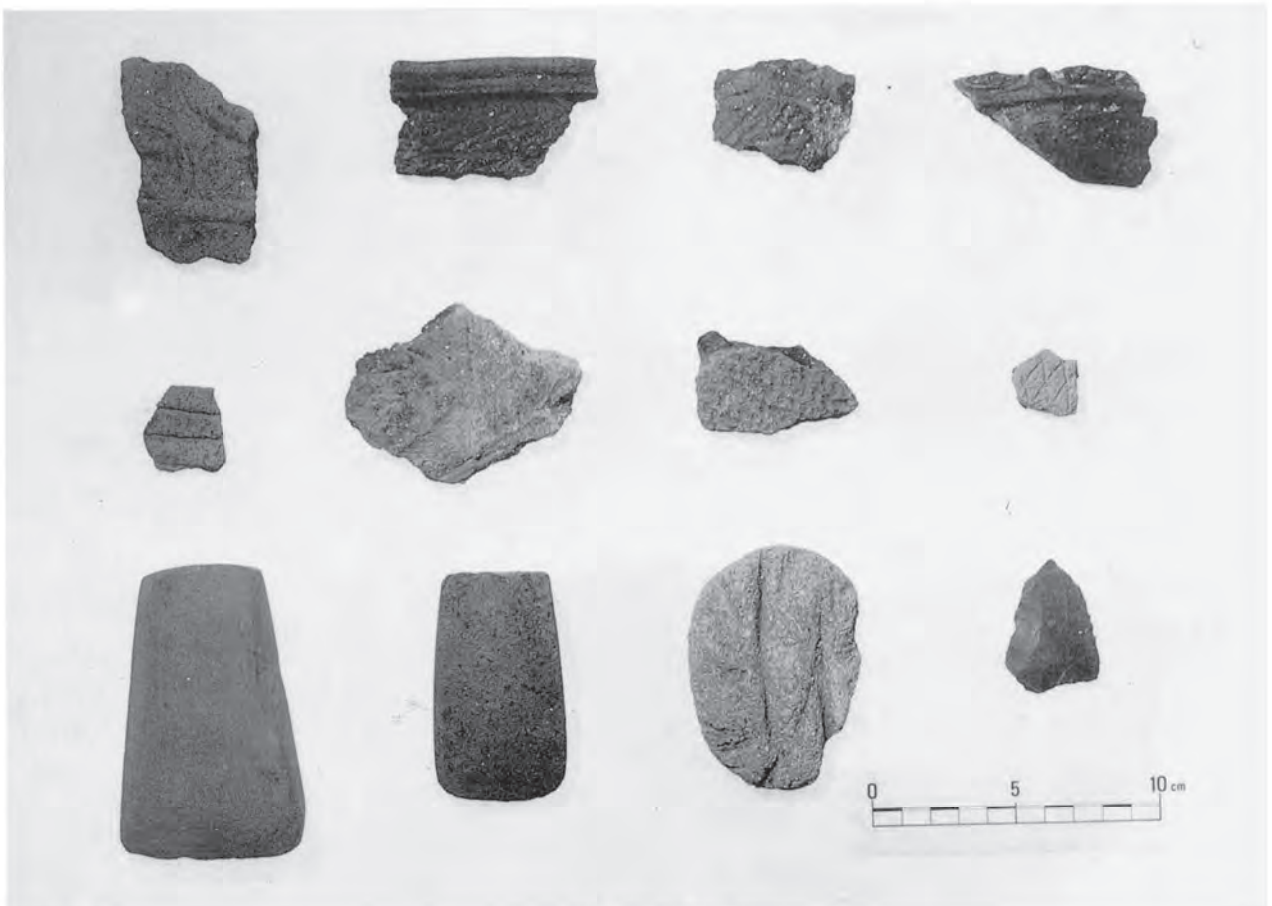


Photo.85

高浜地区遺物



高浜地区遺物

Photo. 86



高浜地区遺物

Photo. 87



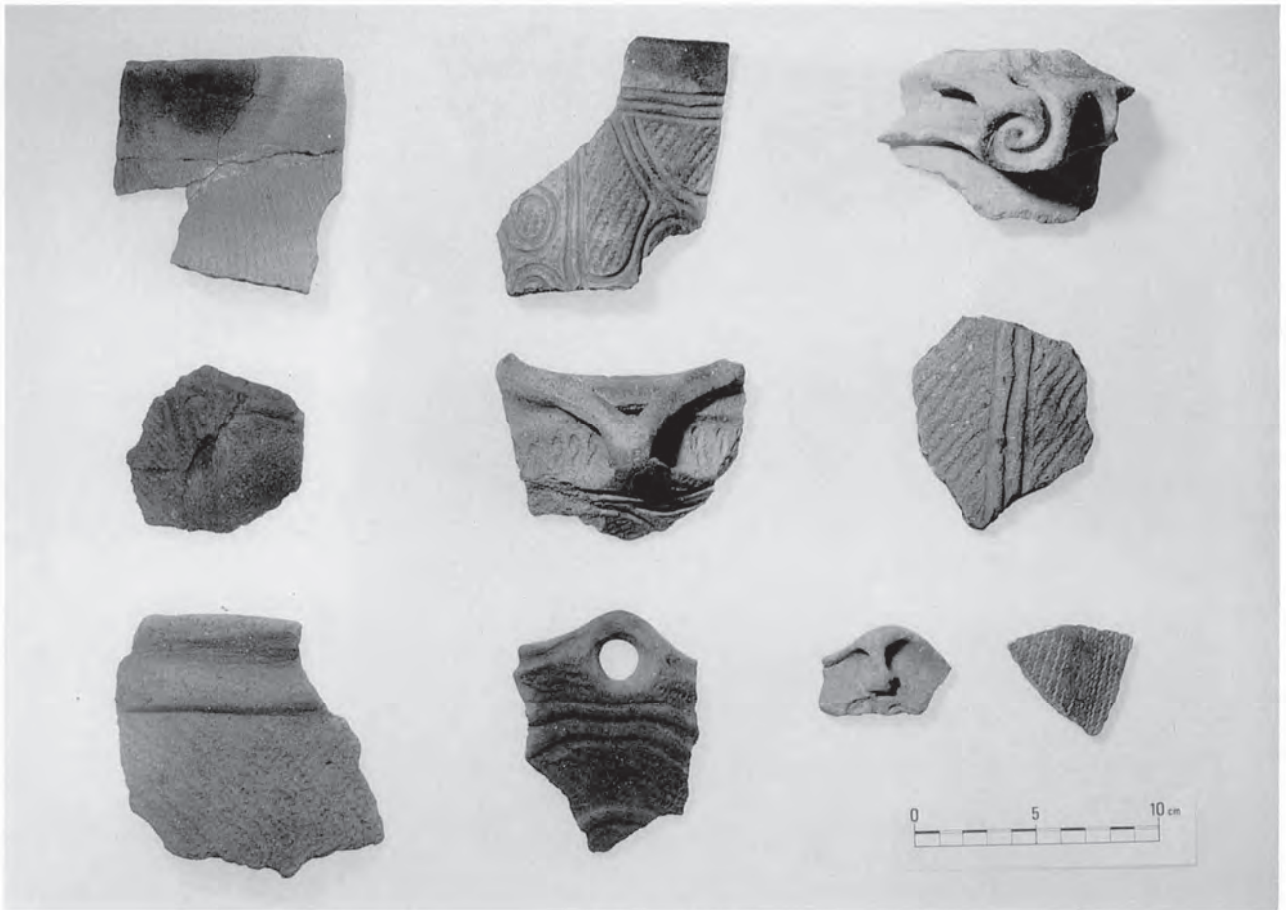
Photo. 88

高浜地区遺物



Photo. 89

高浜地区遺物



高浜地区遺物

Photo. 90



高浜地区遺物

Photo. 91



Photo. 92

高浜地区遺物

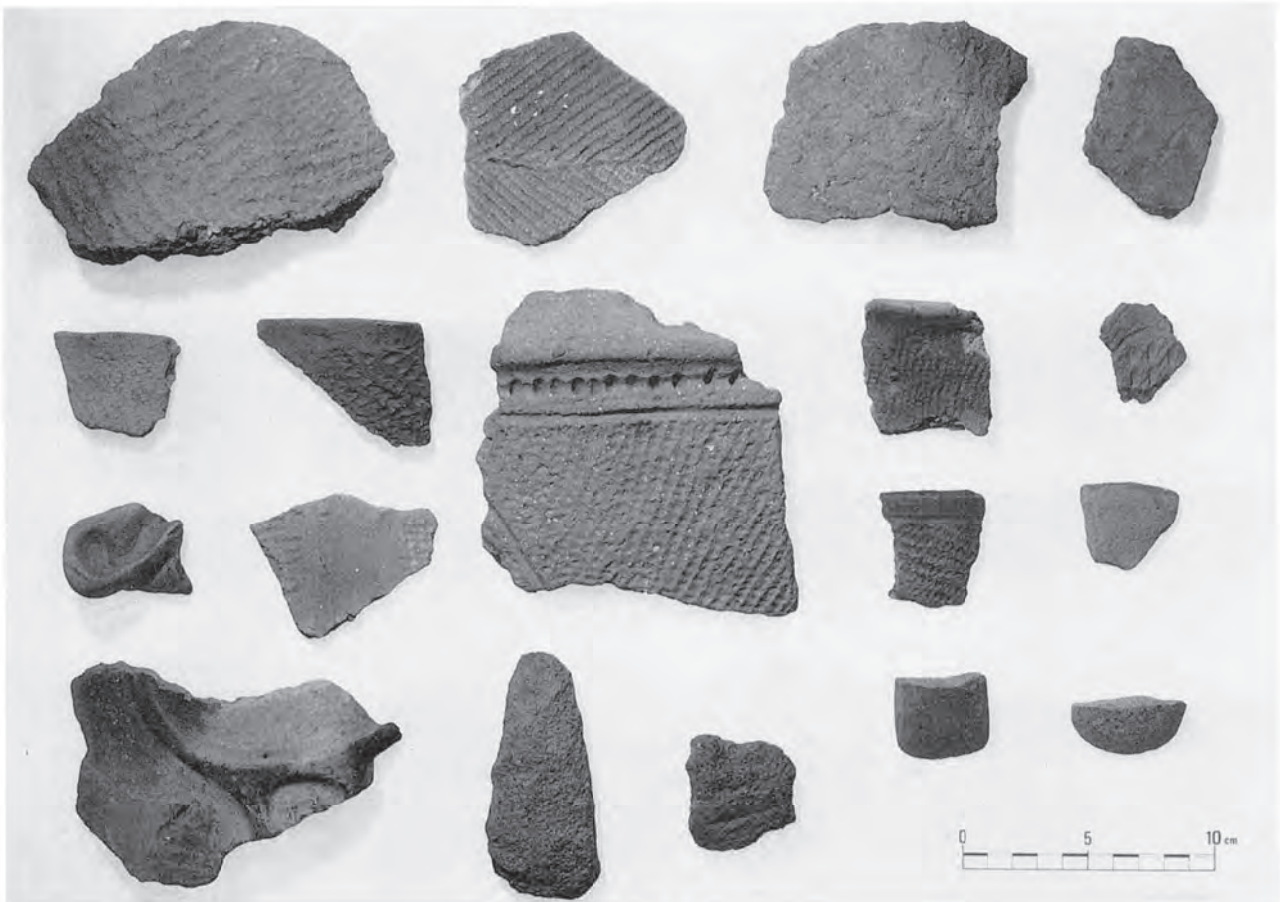


Photo. 93

高浜地区遺物



Ta-01 (北東より)

Photo. 94



Ta-01 (北西より)

Photo. 95



Photo. 96

Ta-02、03 (北より)



Photo. 97

Ta-04 (東より)



Ta-05 (南東より)

Photo. 98



Ta-05 (南より)

Photo. 99



Photo. 100

Ta-05



Photo. 101

Ta-06

6. 金浜地区 (Kanehama)

金浜地区は高浜地区の南、宮古湾西岸奥に位置する。立地は高浜地区とほぼ同様であり、この地区では7ヶ所の遺跡が確認されている。Ka-02の金浜館跡を除き、ほとんどが縄文時代の遺跡である。金浜館跡は昭和55年に発掘調査が行われ、建物跡・堀などが検出されている。またKa-03の一部についても58年に試掘調査が行われ縄文時代の遺物が出土している。



金浜地区遺跡分布図

Fig. 33

宮古市埋蔵文化財調査報告書4

宮古市遺跡分布調査報告書 2

Distribution of Archaeological
Research Sites in Miyako

1984. 3

発行 岩手県宮古市教育委員会
宮古市新川町2番1号

印刷 株式会社文化印刷
岩手県宮古市大通2丁目5の2
